

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成22年4月1日  
(第105期) 至 平成23年3月31日

**東芝プラントシステム株式会社**

(E00200)

第105期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

---

# 有価証券報告書

---

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成23年6月23日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

**東芝プラントシステム株式会社**

# 目 次

頁

## 第105期 有価証券報告書

### 【表紙】

第一部	【企業情報】	1
第1	【企業の概況】	1
1	【主要な経営指標等の推移】	1
2	【沿革】	3
3	【事業の内容】	4
4	【関係会社の状況】	6
5	【従業員の状況】	7
第2	【事業の状況】	8
1	【業績等の概要】	8
2	【生産、受注及び販売の状況】	10
3	【対処すべき課題】	13
4	【事業等のリスク】	14
5	【経営上の重要な契約等】	15
6	【研究開発活動】	15
7	【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	16
第3	【設備の状況】	18
1	【設備投資等の概要】	18
2	【主要な設備の状況】	19
3	【設備の新設、除却等の計画】	21
第4	【提出会社の状況】	22
1	【株式等の状況】	22
2	【自己株式の取得等の状況】	24
3	【配当政策】	25
4	【株価の推移】	25
5	【役員の状況】	26
6	【コーポレート・ガバナンスの状況等】	29
第5	【経理の状況】	36
1	【連結財務諸表等】	37
2	【財務諸表等】	76
第6	【提出会社の株式事務の概要】	100
第7	【提出会社の参考情報】	101
1	【提出会社の親会社等の情報】	101
2	【その他の参考情報】	101
第二部	【提出会社の保証会社等の情報】	102

## 内部統制報告書

### 監査報告書

平成22年3月連結会計年度

平成23年3月連結会計年度

平成22年3月会計年度

平成23年3月会計年度

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年6月23日

**【事業年度】** 第105期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

**【会社名】** 東芝プラントシステム株式会社

**【英訳名】** TOSHIBA PLANT SYSTEMS & SERVICES CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 佐藤 健次

**【本店の所在の場所】** 横浜市鶴見区鶴見中央四丁目36番5号  
(注) 本店は、平成22年7月1日付で東京都大田区蒲田五丁目37番1号から上記場所に移転しました。

**【電話番号】** 045(500)7000

**【事務連絡者氏名】** 総務部担当部長 中山 聡之

**【最寄りの連絡場所】** 横浜市鶴見区鶴見中央四丁目36番5号

**【電話番号】** 045(500)7000

**【事務連絡者氏名】** 総務部担当部長 中山 聡之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

東芝プラントシステム株式会社 中部支社  
(名古屋市西区名西二丁目33番10号)

東芝プラントシステム株式会社 関西支社  
(大阪市北区角田町8番1号)  
(注) 関西支社は、平成22年12月20日付で大阪府中央区本町四丁目2番12号から上記場所に移転しました。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (百万円)	164,737	178,518	165,420	155,181	151,134
経常利益 (百万円)	9,168	11,039	12,768	13,422	13,408
当期純利益 (百万円)	5,024	6,285	7,303	7,840	5,741
包括利益 (百万円)	—	—	—	—	5,690
純資産額 (百万円)	65,560	68,865	74,381	80,825	85,048
総資産額 (百万円)	159,022	156,194	151,089	150,962	167,335
1株当たり純資産額 (円)	671.54	705.56	762.69	829.00	872.18
1株当たり当期純利益金額 (円)	51.51	64.46	74.92	80.45	58.92
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	41.18	44.04	49.20	53.51	50.78
自己資本利益率 (%)	7.94	9.36	10.21	10.11	6.93
株価収益率 (倍)	17.37	11.99	11.10	13.07	15.97
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	13,835	△987	△4,213	9,652	12,640
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△975	△386	△488	△368	△809
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△1,183	△2,218	△1,495	△1,502	△1,474
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	32,679	29,131	22,739	30,554	40,874
従業員数 (名) (外、平均臨時雇用者数)	3,951	3,967	3,970 (443)	3,934 (456)	3,990 (361)

(注) 1 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。

2 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 第102期以前は、「平均臨時雇用者数」が従業員数の100分の10未満であるためその記載を省略しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (百万円)	157,996	169,163	158,172	150,693	145,906
経常利益 (百万円)	8,488	10,068	11,943	12,820	12,613
当期純利益 (百万円)	4,736	5,806	6,849	7,590	5,343
資本金 (百万円)	11,876	11,876	11,876	11,876	11,876
発行済株式総数 (株)	97,656,888	97,656,888	97,656,888	97,656,888	97,656,888
純資産額 (百万円)	62,749	65,514	70,738	76,867	80,713
総資産額 (百万円)	152,876	148,505	143,971	143,894	159,349
1株当たり純資産額 (円)	643.51	672.02	725.79	788.87	828.39
1株当たり配当額 (円)	15	15	15	15	15
(内1株当たり 中間配当額) (円)	(-)	(7.5)	(7.5)	(7.5)	(7.5)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	48.56	59.56	70.27	77.89	54.83
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.05	44.12	49.13	53.42	50.65
自己資本利益率 (%)	7.81	9.05	10.05	10.29	6.78
株価収益率 (倍)	18.43	12.97	11.84	13.50	17.16
配当性向 (%)	30.89	25.18	21.35	19.26	27.35
従業員数 (名) (外、平均臨時雇用者数)	3,185	3,187	3,181 (427)	3,172 (437)	3,171 (351)

(注) 1 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。

2 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 第102期以前は、「平均臨時雇用者数」が従業員数の100分の10未満であるためその記載を省略しております。

## 2【沿革】

昭和13年10月	三興電気株式会社として設立 電燈動力に伴う建設工事の請負施工及び電気機械器具の製造開始
昭和15年3月	合資会社三興電気事務所を合併
昭和15年7月	当社株式の半数を東京芝浦電気株式会社(現株式会社東芝)が所有
昭和34年2月	東芝電設株式会社に商号変更
昭和41年7月	東芝工事株式会社を合併、東芝電気工事株式会社に商号変更 土木建築に付帯する電気施設、電子機器、電気通信、計測設備及び各種産業機械装置の据付工事の請負施工を開始
昭和42年4月	原子力発電所関係事業を開始
昭和45年3月	芝浦工事株式会社を設立
昭和46年4月	配管、空調設備工事の請負施工を開始
昭和48年2月	株式会社芝工共同体(現株式会社エス・ケー・エス(当社連結子会社))に資本参加
昭和51年9月	建築工事の請負施工を開始
昭和52年9月	消防設備の請負施工を開始
昭和53年12月	東芝プラント建設株式会社に商号変更
昭和54年11月	東京証券取引所市場第二部銘柄として上場
昭和55年12月	鋼構造物工事の請負施工を開始
昭和58年5月	磯子技術センター(現磯子事業所)設置
昭和58年9月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
昭和58年12月	芝協プラント建設株式会社を設立
昭和59年8月	一級建築士事務所の登録
昭和61年2月	厚木技術開発センター設置
平成元年12月	TOSPLANT ENGINEERING(S)PTE LTD(当社連結子会社)を設立
平成5年2月	TOSPLANT ENGINEERING(THAILAND)CO., LTD.(当社連結子会社)を設立
平成6年8月	PT. TOSPLANT ENGINEERING INDONESIA(当社連結子会社)を設立
平成7年11月	TOSPLANT PHILIPPINES CORPORATION(当社連結子会社)を設立
平成8年10月	横須賀研修センター設置
平成9年7月	土木工事の請負施工を開始
平成10年12月	TOSHIBA PLANT KENSETSU(INDIA)PRIVATE LIMITED(現TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED(当社連結子会社))を設立
平成11年12月	東芝電力放射線テクノサービス株式会社及び東芝電力検査サービス株式会社(両社とも当社持分法適用関連会社)を設立
平成12年12月	TOSPLANT PHILIPPINES CORPORATION(当社連結子会社)を解散
平成13年2月	TPK ENGINEERING & CONSTRUCTION(MALAYSIA)SDN. BHD.(現TPSC ENGINEERING(MALAYSIA)SDN. BHD.(当社連結子会社))を設立
平成15年3月	TOSPLANT ENGINEERING(S)PTE LTD(当社連結子会社)を解散
平成16年1月	東芝エンジニアリング株式会社を吸収合併、東芝プラントシステム株式会社に商号変更(関西東芝エンジニアリング株式会社、東芝エンジニアリングサービス株式会社、イーエス東芝エンジニアリング株式会社の3社が当社連結子会社となる)
平成16年1月	芝協プラント建設株式会社が芝浦テクノス株式会社(旧芝浦工事株式会社)を吸収合併、芝浦プラント株式会社(当社連結子会社)に商号変更
平成16年8月	東芝放射線テクノサービス株式会社は、増資による当社持株比率の低下により持分法適用関連会社から除外
平成17年3月	横須賀研修センターを廃止し、同センターの機能を厚木技術開発センターに移管
平成22年6月	TPSC(THAILAND)CO.,LTD.(当社連結子会社)を設立
平成22年10月	TPSC US CORPORATION(当社連結子会社)を設立

### 3【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社、親会社、連結子会社11社及び持分法適用関連会社1社により構成されており、「発電システム部門」、「社会・産業システム部門」の2つのセグメントに係る事業として、火力、水力、原子力発電設備、受変電設備、公共設備や一般産業向けの各種設備、ビル施設などのエンジニアリング・調達・施工・試運転・調整・サービスを一貫して提供しております。

また、当社は、建設業法により、特定建設業者として、平成19年7月23日国土交通大臣許可(特-19)第3515号の更新許可、並びに一般建設業者として、平成19年7月23日国土交通大臣許可(般-19)第3515号の更新許可をうけております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置づけは次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況(セグメント情報等)」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

#### 発電システム部門

当社が火力、水力発電設備及び原子力発電設備の計画、設計、監督施工、試運転、保守等をするほか、連結子会社である芝浦プラント(株)、PT. TOSPLANT ENGINEERING INDONESIA、TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED、TPSC ENGINEERING(MALAYSIA) SDN. BHD.、TPSC(THAILAND)CO.,LTD.、TPSC US CORPORATIONが一部工事の施工、エンジニアリング等を行っております。また、連結子会社であるイーエス東芝エンジニアリング(株)が設計、現地試験・調整等の一部を行うとともに、持分法適用関連会社である東芝電力検査サービス(株)が原子力関連施設工事に係る一部検査等を行っております。その他現場で使用する各種工事用資産及び建設用機器等を連結子会社である芝浦プラント(株)から一部借用しております。

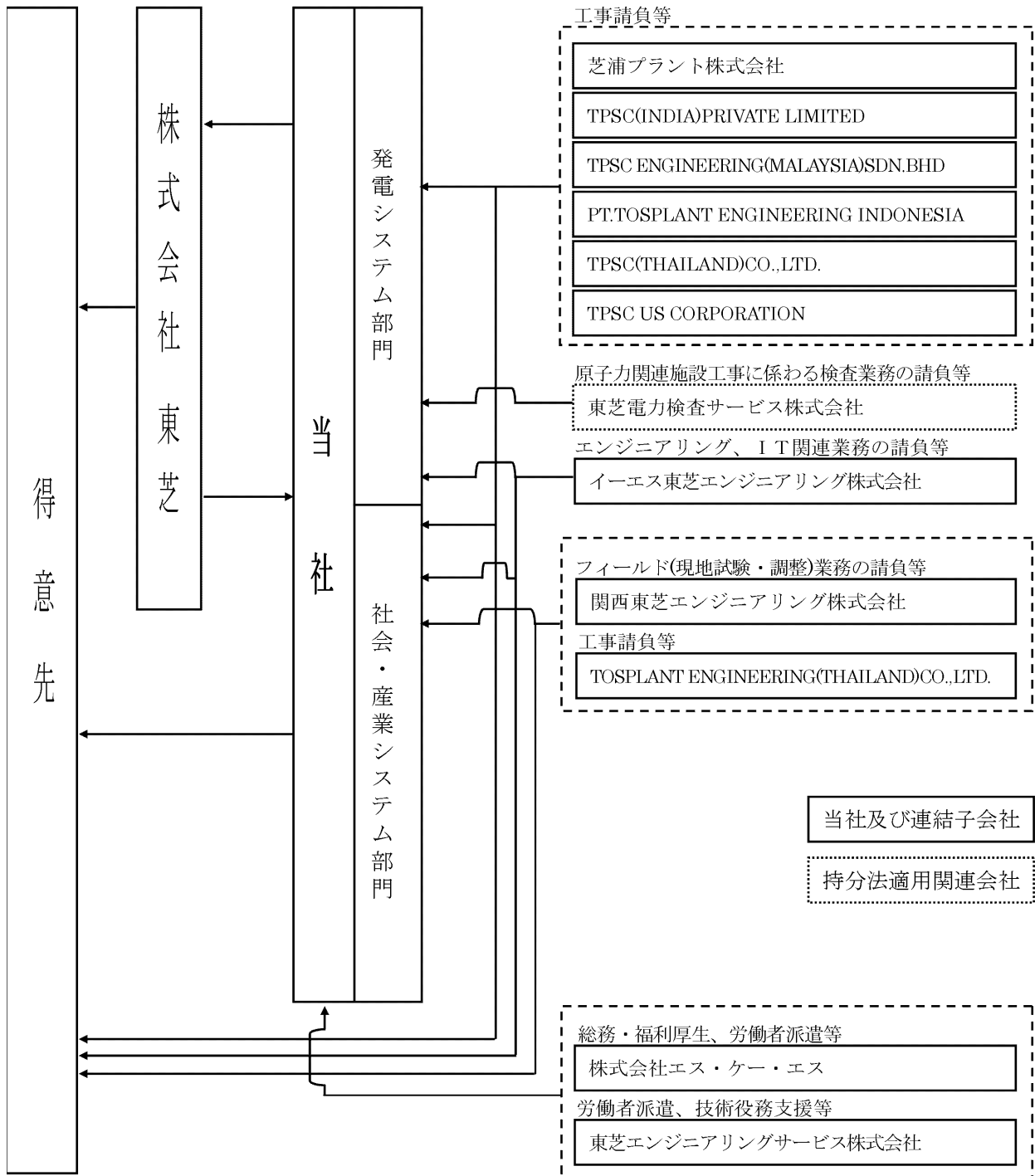
#### 社会・産業システム部門

当社が受変電設備、公共設備や一般産業向けの各種設備、ビル設備、情報系事業の計画、設計、監督施工、試運転、保守等をするほか、連結子会社である芝浦プラント(株)、TOSPLANT ENGINEERING(THAILAND)CO.,LTD.が一部工事の施工等を行っております。また、連結子会社である関西東芝エンジニアリング(株)が現地試験・調整等の一部を行うとともに、連結子会社であるイーエス東芝エンジニアリング(株)が情報系事業における設計、製作等の一部を行っております。その他現場で使用する各種工事用資産及び建設用機器等を連結子会社である芝浦プラント(株)から一部借用しております。

なお、親会社である株式会社東芝は、当社の株式58,242千株を所有しており、出資比率61.3%(間接所有分1.6%を含む。)を占めております。

当社は、(株)東芝より、電気工事、機械器具設置工事、管工事、鋼構造物工事、電気通信工事、建築工事及び消防施設工事のエンジニアリング、施工、試運転・現地調整等を請負とともに、電気機械器具等の資材を同社より購入するなどの取引を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有・被所有割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(親会社)						
(株)東芝	東京都港区	439,901	発電システム部門 社会・産業システム部門	—	61.61 (1.65)	当社は工事の設計及び施工、 現地試験・調整、保守・点検 等を請負とともに、同社より 工事に関連する一部資材の購 入等をしております。
(連結子会社)						
芝浦プラント(株)	横浜市磯子区	80	発電システム部門 社会・産業システム部門	100.00	—	工事の施工、作業所宿舍の運 營業務、当社倉庫の運営管 理、工事事業資材の賃貸、工 事用固定資産の購入等をして おり、当社の従業員が役員の 兼務等をしております。
関西東芝エンジニアリン グ(株)	大阪市中央区	100	社会・産業システム部門	100.00	—	西日本地区における現地試 験・調整、保守・点検等をし ており、当社の従業員が役員 の兼務等をしております。
東芝エンジニアリングサ ービス(株)	横浜市鶴見区	10	その他(労働者派遣事 業、当社への技術業務支 援業務)	100.00	—	労働者派遣事業、当社への技 術業務支援業務等をしており 、当社の従業員が役員の兼 務等をしております。
イーエス東芝エンジニア リング(株) (注)5	横浜市磯子区	100	発電システム部門 社会・産業システム部門	100.00	—	設計、現地試験・調整等をし ており、当社の従業員が役員 の兼務等をしております。
(株)エス・ケー・エス	横浜市鶴見区	10	その他(当社総務・福利 厚生関係業務の受託、労 働者派遣事業)	100.00	—	当社総務・福利厚生関係業務 の受託等をしており、当社の 従業員が役員の兼務等をして おります。
PT. TOSPLANT ENGINEERING INDONESIA	インドネシア国	千米ドル 350	発電システム部門	88.57	—	工事の施工等をしており、当 社の従業員が役員の兼務等をし ております。
TPSC (INDIA) PRIVATE LIMITED	インド国	千ルピー 30,000	発電システム部門	100.00 (0.00)	—	工事の設計及び施工並びに工 事用資材の調達等をしており 、当社の従業員が役員の兼 務等をしております。また、 当社が債務保証をしておりま す。
TPSC ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア国	千リン ギット 12,000	発電システム部門	100.00	—	工事の施工等をしており、当 社の従業員が役員の兼務等をし ております。また、当社が 資金の貸付をしております。
TOSPLANT ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD. (注)6	タイ国	千タイ バーツ 5,000	社会・産業システム部門	49.00 (16.00)	—	工事の施工等をしており、当 社の従業員が役員の兼務等をし ております。
TPSC (THAILAND) CO., LTD. (注)7	タイ国	千タイ バーツ 70,000	発電システム部門	100.00 (0.00)	—	工事の施工等をしており、当 社の従業員が役員の兼務等をし ております。また、当社が 債務保証をしております。
TPSC US CORPORATION (注)7	米国	千米ドル 3,500	発電システム部門	100.00	—	発電設備のエンジニアリング 等をしており、当社の従業員 が役員の兼務等をしておりま す。
(持分法適用関連会社)						
東芝電力検査サービス(株) (注)8	横浜市磯子区	25	発電システム部門	18.00	—	当社の原子力関連施設工事に 係わる検査業務の請負等をし ており、当社の従業員が役員 の兼務等をしております。

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 「議決権の所有・被所有割合」欄の( )内の数値は、間接所有又は間接被所有の割合で内数であります。

3 上記子会社は特定子会社に該当しません。

4 上記子会社及び持分法適用関連会社は有価証券報告書又は有価証券届出書を提出していません。

5 イーエス東芝エンジニアリング株式会社は、平成22年4月1日付で本店を横浜市に移転しました。

6 当社の議決権の所有割合は50%以下ではありますが、実質的に支配しているため、連結子会社としております。

7 平成22年6月23日付でTPSC (THAILAND) CO., LTD. を、平成22年10月1日付でTPSC US CORPORATIONを設立し、両社を連結子会社としました。

8 当社の議決権の所有割合は20%未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため、持分法適用関連会社としております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
発電システム部門	2,267 (221)
社会・産業システム部門	1,456 (131)
報告セグメント計	3,723 (352)
全グループ共通管理部門	267 ( 9)
合計	3,990 (361)

(注) 1 「従業員数」は、就業人員数であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員等を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2 「全グループ共通管理部門」として記載されている「従業員数」は、管理部門に所属している人員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
3,171(351)	43.5	20.2	8,339,343

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
発電システム部門	1,682 (212)
社会・産業システム部門	1,283 (130)
報告セグメント計	2,965 (342)
全社共通管理部門	206 ( 9)
合計	3,171 (351)

(注) 1 「従業員数」は、就業人員数であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員等を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2 「平均年間給与」は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3 「全社共通管理部門」として記載されている「従業員数」は、管理部門に所属している人員であります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合の状況であります。当社の労働組合である東芝プラントシステム労働組合は、昭和42年9月に結成され、平成23年3月31日現在の組合員数は2,260名であり、東芝労働組合並びに東芝関連企業労働組合で結成されている東芝グループ労働組合連合会に加盟しております。

また、当社の連結子会社である芝浦プラント(株)の労働組合である芝浦プラント労働組合は、平成10年8月に結成され、平成23年3月31日現在の組合員数は119名であります。

いずれも会社との関係は正常であり、組合結成以来円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な新興国経済に牽引され、輸出や生産が持ち直し、景気対策等の効果も加わり、年度後半から景気は足踏み状態を脱し緩やかな回復傾向にありました。

当社グループは、10中期経営計画を推進し、「①利益ある持続的成長の実現」、「②BCM※経営によるイノベーションの追求」、「③CSR経営の遂行」を基本戦略とし、「利益ある持続的成長を続けるエクセレントカンパニー」の実現に向けた諸施策に取り組みました。

「利益ある持続的成長の実現」では、平成23年1月に火力事業体制の再編・強化を目的として、火力プラント事業部と電力事業部を統合し、リソースの有効活用とこれまで培ってきた技術・経験等を集約することにより、海外を中心とした旺盛な電力需要等に対応すべく、電力プラント事業部を新設しました。また、固定費の圧縮や事業部門主導の調達体制による変動費の低減に継続的に取り組むなど、コスト競争力の強化を図りました。更に、海外事業拡大の体制整備の一環として、平成22年6月にティーピーエスシー・タイ社を、平成22年10月にティーピーエスシー・アメリカ社を設立しました。

「BCM経営によるイノベーションの追求」では、従来のMI (Management Innovation)活動を継続的に推進するとともに、身近なイノベーション活動であるSGA (Small Group Activities)を更に活性化し、当社グループ全体の活動として展開しました。

「CSR経営の遂行」では、「すべての事業活動において生命、安全、コンプライアンスを最優先し社会から信頼される東芝プラントシステムグループ」を実現することを目指し、法令、社会規範、倫理等についてのコンプライアンスやリスクマネジメントに積極的に取り組むとともに、環境負荷低減活動や品質マネジメントシステムを継続的に改善し経営品質の維持向上に努めました。

このような状況の中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災につきましては、社会インフラ全般を担う企業として震災直後から速やかに体制を構築し、全社を挙げてお客様の復旧支援活動を開始しております。

なお、震災による当連結会計年度の業績への影響につきましては、一部売上案件の期ずれ等があったものの、軽微にとどまりました。

この結果、受注高は156,198百万円(前連結会計年度比8.5%減)、この内海外関係は25,766百万円(全体比16.5%)となりました。売上高は151,134百万円(前連結会計年度比2.6%減)、この内海外関係は21,360百万円(全体比14.1%)となりました。

また、利益面につきましては、経常利益は13,408百万円(前連結会計年度比0.1%減)となり、当期純利益は有価証券の評価損により5,741百万円(前連結会計年度比26.8%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

発電システム部門は、受注高及び売上高ともに、発電所の定期点検及び改造工事等の案件が縮小したことなどによる影響を受け、減少しました。

社会・産業システム部門は、受注高及び売上高ともに、国内の変電設備関係及び一般産業関係等の案件が伸長したことなどにより増加しました。

#### セグメント別の受注高及び売上高等

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前連結会計 年度比増減	売上高 (百万円)	前連結会計 年度比増減	経常利益 (百万円)	前連結会計 年度比増減
発電システム部門	87,745	16.8%減	81,014	9.1%減	7,497	16.7%減
社会・産業システム部門	68,452	5.1%増	70,119	6.2%増	5,910	33.5%増
合計	156,198	8.5%減	151,134	2.6%減	13,408	0.1%減

※東芝経営管理手法であるBCM (Balanced CTQ Management) は、企業の経営ビジョンを実現するための方法論です。

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式によっており、以下の諸表の記載金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローにつきましては、当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は40,874百万円となり、前連結会計年度末より10,320百万円（33.8%）増加いたしました。なお、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動では12,640百万円の増加（前連結会計年度比2,988百万円増）となりました。これは主に、売上債権の増加による2,776百万円、法人税等の支払額5,810百万円の資金の減少があったものの、税金等調整前当期純利益11,425百万円、仕入債務の増加による10,289百万円の資金の増加によるものであります。

投資活動では809百万円の減少（前連結会計年度比441百万円減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による769百万円の資金の減少によるものであります。

財務活動では1,474百万円の減少（前連結会計年度比27百万円増）となりました。これは主に、株主配当金の支払による1,461百万円の資金の減少によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

当連結会計年度における受注高及び売上高をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間から事業の報告セグメントを変更しております。変更の内容につきましては、「第5経理の状況（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。また、前年同期比較にあたっては、前年度連結会計期間分を変更後の区分に組み替えております。

セグメントの名称	受注高(百万円)		売上高(百万円)	
	前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
発電システム部門	105,526	87,745	89,158	81,014
社会・産業システム部門	65,147	68,452	66,023	70,119
計	170,673	156,198	155,181	151,134

(注) 当社グループでは生産実績を定義することが困難であるため、生産の状況は記載しておりません。

当社グループでは、提出会社に係る受注及び売上の状況が当社グループの受注及び売上の大半を占めており、提出会社単独の事業の状況を参考に示すと次のとおりであります。

提出会社における事業の状況

### ① 受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

期別	セグメントの名称	前期繰越 工事高 (百万円)	当期受注 工事高 (百万円)	合計 (百万円)	当期完成 工事高 (百万円)	次期繰越工事高			当期施工高 (百万円)
						手持工事高 (百万円)	うち、 施工高 (%)	うち、 施工高 (百万円)	
第104期 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	発電システム 部門	63,430	104,568	167,999	86,621	80,798	17.5	14,171	82,718
	社会・産業 システム部門	33,148	61,190	94,339	64,071	30,023	13.6	4,083	62,809
	計	96,579	165,759	262,339	150,693	110,822	16.5	18,255	145,527
第105期 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	発電システム 部門	80,798	72,808	153,607	78,502	74,546	22.5	16,769	81,100
	社会・産業 システム部門	30,023	66,022	96,046	67,404	28,559	12.1	3,443	66,764
	計	110,822	138,831	249,653	145,906	103,105	19.6	20,213	147,864

(注) 1 前期以前に受注した工事で契約の更新により請負金額に変更のあるものについては、その増減額を当期受注工事高に含めております。

2 「次期繰越工事高」の「施工高」は工事の進捗部分であり、未成工事支出金により推定したものであります。

3 「当期施工高」は(「当期完成工事高」+「次期繰越施工高」-「前期繰越施工高」)に一致しております。

4 海外工事受注工事高 第104期 30,892百万円 受注工事高総額に対して 18.6%

第105期 11,167百万円 受注工事高総額に対して 8.0%

5 海外工事完成工事高 第104期 17,446百万円 完成工事高総額に対して 11.6%

第105期 18,938百万円 完成工事高総額に対して 13.0%

6 前期より繰越した外貨建契約による海外工事の「当期完成工事高」について、売上計上時の為替相場により換算した結果生じた換算差額は当期の「次期繰越工事高」の修正とし、「手持工事高」の金額は換算差額修正後の金額としております。なお、換算差額は次のとおりであります。

第104期計 △823百万円

第105期計 △641百万円

② 受注工事の受注方法別比率  
受注方法 特命 競争別

期別	セグメントの名称	特命(%)	競争(%)	計(%)
第104期 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	発電システム部門	68.5	31.5	100
	社会・産業システム部門	48.3	51.7	100
	計	61.1	38.9	100
第105期 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	発電システム部門	87.4	12.6	100
	社会・産業システム部門	57.3	42.7	100
	計	73.1	26.9	100

③ 完成工事高

期別	セグメントの名称	(株)東芝 (百万円)	官公庁 (百万円)	一般民間会社 (百万円)	合計 (百万円)	割合	
						(株)東芝の 占める割合 (%)	海外工事の 占める割合 (%)
第104期 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	発電システム部門	70,623	187	15,811	86,621	81.5	14.6
	社会・産業システム 部門	28,537	7,433	28,100	64,071	44.5	7.5
	計	99,160	7,620	43,912	150,693	65.8	11.6
第105期 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	発電システム部門	58,583	133	19,784	78,502	74.6	20.8
	社会・産業システム 部門	39,062	6,756	21,584	67,404	58.0	3.9
	計	97,646	6,890	41,369	145,906	66.9	13.0

(注) 1 海外工事の主な地域及び割合は、次のとおりであります。

地域別	第104期	第105期
	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
東南アジア	32.1%	57.4%
その他アジア	15.1%	17.7%
その他の地域	52.8%	24.9%
計	100%	100%

(注) 1 国又は地域の区分は地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域は次のとおりであります。

- (1) 東南アジア : インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ラオス等
- (2) その他アジア : 中国、台湾、韓国、インド、アラブ首長国連邦、クウェート等
- (3) その他の地域 : エジプト、南北アメリカ、オセアニア等

2 第104期の完成工事のうち5億円以上の主なものは、次のとおりであります。

受注先	件名
(株)東芝	東北電力(株)女川原子力発電所3号機耐震性向上工事及び同関連除却工事
(株)東芝	東北電力(株)女川原子力発電所2号機第10回定期点検修繕工事
(株)東芝	(株)東芝横浜事業所320号棟新築電気設備工事
日本下水道事業団	堺市三宝下水処理場電気設備工事その5
東芝三菱電機産業システム(株)	東京製鐵(株)田原工場圧延設備電気品据付配線工事

3 第105期の完成工事のうち5億円以上の主なものは、次のとおりであります。

受注先	件名
(株)東芝	東北電力(株)女川原子力発電所1号機第19回定期点検修繕工事
(株)東芝	関西電力(株)舞鶴火力発電所2号機発電設備据付工事
(株)東芝	(株)東芝四日市工場特高受変電設備工事
(株)東芝	沖縄電力(株)宮古島マイクログリッドシステム設備工事
中部デルタ発電公社 西部デルタ発電公社	エジプト・中部デルタ発電公社エル・アテフ750MWガスタービン複合発電所向け及び西部デルタ発電公社シディ・クリール750MWガスタービン複合発電所向け付帯(機械・電気)設備の供給・据付工事

④ 手持工事高

セグメントの名称	(株)東芝 (百万円)	官公庁 (百万円)	一般民間会社 (百万円)	合計 (百万円)
発電システム部門	47,803	59	26,682	74,546
社会・産業システム部門	12,357	5,222	10,979	28,559
計	60,161	5,282	37,661	103,105

(注) 手持工事のうち5億円以上の主なものは、次のとおりであります。

第105期期末

受注先	件名	完成予定年月
(株)東芝	東芝モバイルディスプレイ(株)新工場製造棟電気設備工事	平成23年12月
住友商事(株)	タイ・アマタ シティ工業団地向けコンバインドサイクル・コージェネレーション発電所設備供給フェーズ1及びフェーズ2	平成25年11月
丸紅(株)	インドネシア・クラマサン国営電力向けコンバインドサイクル発電所増設	平成25年6月
コースタル グジャラート パワー リミテッド	インド・ムンドラ石炭火力発電所タービン発電機据付工事	平成24年6月
北関東防衛局	北関東防衛局 市ヶ谷(22)庁舎A棟等改修電気その他工事	平成24年3月

### 3 【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、東日本大震災による景気の下押しが懸念される中、社会インフラシステム及び一般産業分野の復旧に向けた取り組みの強化が見込まれます。

このような状況のもと、当社グループは、上記事業環境の変化を織り込み平成23年4月にスタートさせた11中期経営計画に基づき、更なる持続的成長を実現するため、成長分野への戦略的な資源配分と資源の集中による事業拡大を図るとともに、調達コストの低減や業務の効率化等コスト競争力の強化に継続して取り組み、業績の維持向上を図ってまいります。また、社会貢献、法令遵守、環境保全、人権尊重など様々な分野への活動を通じ、健全で質の高い経営の実現に取り組むとともに、社会インフラシステムの整備を担う企業として、震災の復興支援に向けて全力を挙げて取り組み、お客様に信頼される企業として「安心と安全」を提供し、社会の発展に貢献してまいりたい所存であります。

## 4【事業等のリスク】

当社が認識している当社グループの業績等に影響を与える可能性のある主なリスクは以下のとおりであります。当社は、投資家に対する積極的な情報開示の観点からリスクを広範囲に捉えて開示しております。また、このようなリスクを認識した上で、必要なリスク管理体制を整え、リスク発生の回避及びリスク発生時の影響の極小化に最大限努めております。

なお、以下に記載する事項は、有価証券報告書提出日(平成23年6月23日)現在入手し得る情報に基づき当社グループが判断したものでありますが、積極的な情報開示の観点からリスクを広範囲に捉えて開示しておりますので、必ずしも投資判断に影響を与えるとは限らない事項も含まれております。

### ①発電システム部門の事業環境

発電システム部門での海外事業においては、アジア地域を中心に展開しておりますが、これらの地域の政治・経済・社会情勢の変化やテロ等が発生した場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、当部門では大型プラント物件を受注しており、物件の工程遅延、計画変更等が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### ②社会・産業システム部門の事業環境

社会・産業システム部門は、政府、地方公共団体等の公共投資、民間設備投資が売上の大半を占めており、当部門はこれらの投資動向を見据えて事業を遂行しておりますが、公共投資の減少、民間設備投資の低迷等が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、物件の工程遅延、計画変更等が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### ③新たな事業展開

当社グループは、従来の事業領域に加え、環境・情報系事業等の新たな事業領域において事業展開を図っております。

これらの事業領域は不確実要因を内包しており、事業環境や市場動向に大幅な変動がある場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### ④親会社との関係

当社は、平成23年3月末時点において当社議決権の61.61%(間接所有分1.65%を含む)を保有している株式会社東芝を親会社として東芝グループに属しており、当社グループの売上の多くは株式会社東芝及び東芝グループに関連しているため、株式会社東芝及び東芝グループの事業環境の動向が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### ⑤世界情勢

当社グループは、国内外で事業を展開しておりますが、各地域の政治・経済・社会情勢の変化や各種規制の動向が各地域の需要や当社グループの事業に影響を与え、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

特に、当社グループは、アジア地域を中心に海外事業を展開しているため、これらの地域において、地震、テロ、政変、伝染病の流行等が発生した場合は、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

### ⑥大規模災害等

当社グループは、国内拠点の多くを都心近郊に有しておりますが、これらの地域において、想定した水準をはるかに超えた大規模な地震や台風、洪水等、不可避な自然災害が発生した場合、甚大な被害を受ける可能性があります。また、工事中断、輸送ルート寸断、情報通信インフラの損壊等の事態が生じた場合は、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

### ⑦為替相場の変動

当社グループは、主としてアジア地域を中心に海外事業を行っており、資産、負債、売上、費用の一部は米ドルを中心とした外国通貨建となっております。当社グループは、為替予約取引を行いリスクの回避に努めておりますが、為替相場の変動によって、当社グループの業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

### ⑧コンプライアンス、内部統制

当社グループは、国内外で事業を展開する上で、各国の法令、規則の適用を受けております。当社グループは、コンプライアンス(法令遵守)のために適切な内部統制システムを構築し、運用しておりますが、内部統制システムは本質的に内在する固有の限界があるため、その目的の達成を完全に保証するものではありません。このため、将来にわたって法令違反等が発生する可能性が皆無ではありません。また、法規制や当局の法令解釈が変更になることにより法規制等の遵守が困難になり、又は遵守のための費用が増加する可能性があります。

#### ⑨争訟等

当社グループは、国内外で事業を展開しており、訴訟その他の法的手続に関するリスクを有しておりますが、訴訟及び規制当局による措置等により、当社グループに対して通常の想定を超えた金額の支払命令又は事業の遂行に対する制限が加えられる可能性があり、このような重大な法的責任又は規制当局による措置が生じた場合は、当社グループの業績及び財政状態に重大な影響を与える可能性があります。

#### ⑩品質

当社グループは、建設業を主たる事業としており、工事の施工及びこれに伴う製品の調達、製造・販売等に当たっては、品質管理の徹底等に努めておりますが、工事施工中において、重大な品質問題等が発生した場合は、問題解決に係わる多額の費用負担等が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### ⑪情報セキュリティ

当社グループは、事業遂行に関連して、多数の個人情報等を有しております。また、当社グループの技術、営業、その他事業に関する営業秘密を多数有しております。当社グループは、情報管理に万全を期しておりますが、予期せぬ事態により情報が流出し、第三者がこれを不正に取得、使用する可能性があり、このような事態が生じた場合、この対応のために多額の費用負担が生じる可能性があります。また、当社グループの事業活動において情報システムの役割は極めて重要であります。当社グループは、情報システムの安定的運用に努めておりますが、コンピュータウイルス、災害、テロ、ソフトウェア又はハードウェアの障害等により情報システムが機能しなくなる可能性が皆無ではありません。

#### ⑫退職給付債務

退職給付債務は、年金数理計算上合理的と認められる前提に基づいて計算されておりますが、この前提が経済的変動及びその他の要因によって変動した場合、あるいは年金資産の運用実績が低下した場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

### 5【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、発電システムと社会・産業システムの各セグメントにて、今後の事業の中心となる技術等の研究開発活動を推進しております。

当連結会計年度におけるセグメント別の主要研究テーマ及び研究開発費は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は464百万円となっております。

#### (1) 発電システム部門

発電システム部門では、「工法改善の技術」、「配管系耐震解析技術の高度化」、「3Dレーザー計測データの応用」、「自動溶接工法の適用拡大」、「環境配慮型軸受」等の開発に注力しました。

発電システム部門に係る研究開発費は361百万円であります。

#### (2) 社会・産業システム部門

社会・産業システム部門では、「産業用3Dレーザー計測技術」、「監視制御装置の機能高度化」等の開発に注力しました。

社会・産業システム部門に係る研究開発費は103百万円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### 1. 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。この連結財務諸表の作成に当たりまして、決算日における資産・負債の報告数値、報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積りは、主に貸倒引当金、退職給付引当金、工事損失引当金及び法人税等であり、継続して評価を行っております。

なお、見積り及び判断・評価については、過去実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

### 2. 財政状態の分析

#### ①資産、負債及び純資産

##### (資産)

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末から16,373百万円増加し167,335百万円となりました。

流動資産は、現金預金及び株式会社東芝へのグループ預け金の合計額の増加10,506百万円、受取手形・完成工事未収入金等の増加2,757百万円、未成工事支出金等の増加1,773百万円等により、前連結会計年度末から17,593百万円増加し147,927百万円となりました。

固定資産は、繰延税金資産で877百万円増加したものの、投資有価証券が2,021百万円減少したこと等により、前連結会計年度末から1,220百万円減少し19,408百万円となりました。

##### (負債)

当連結会計年度末の負債は、前連結会計年度末より12,150百万円増加し82,287百万円となりました。

流動負債は、支払手形・工事未払金等の増加10,284百万円等により、前連結会計年度末から10,082百万円増加し54,551百万円となりました。

固定負債は、退職給付引当金が2,026百万円増加したことにより、前連結会計年度末から2,068百万円増加し27,736百万円となりました。

##### (純資産)

当連結会計年度末の純資産は、利益剰余金が4,280百万円増加したことにより、前連結会計年度末から4,222百万円増加し85,048百万円となりました。

#### ② キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ10,320百万円増加し40,874百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ2,988百万円増加し12,640百万円となりました。これは主に、主要な運転資金項目である売上債権、未成工事支出金等、仕入債務及び未成工事受入金の増減で5,828百万円好転したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ441百万円減少し△809百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出・売却による収入の増減で470百万円悪化したことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ27百万円増加し△1,474百万円となりました。

### 3. 経営成績の分析

#### ① 売上高

売上高は前連結会計年度に比べ2.6%減収の151,134百万円となりました。

部門別売上高については、発電システム部門は、発電所の定期点検及び改造工事等の案件の縮小などの影響を受け減少し前連結会計年度に比べ9.1%減収の81,014百万円、社会・産業システム部門は、国内の受変電設備関係及び一般産業関係等の案件の伸長などにより前連結会計年度に比べ6.2%増収の70,119百万円となりました。

#### ② 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、前連結会計年度に比べ3.4%減少の127,703百万円となりました。これは主に、効率性の向上やコスト削減施策等によるものであります。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ168百万円増加の10,277百万円となりました。

#### ③ 営業外収益、営業外費用

営業外収益は、前連結会計年度に比べ8百万円減少し568百万円となりました。これは主に、為替差益の減少によるものであります。

営業外費用は、前連結会計年度に比べ256百万円増加し313百万円となりました。これは主に、為替差損の増加によるものであります。

#### ④ 特別損失

特別損失は、投資有価証券評価損1,982百万円を計上しております。

#### ⑤ 税金費用

税金費用は、前連結会計年度に比べ169百万円増加の5,662百万円となりました。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

設備投資については、当連結会計年度に836百万円を投下しました。主なものは宿舎等その他設備及び情報処理設備であります。

当連結会計年度において実施した重要な設備投資は次のとおりであります。

会社名	セグメントの名称	設備の内容	投資金額（百万円）
提出会社	発電システム部門	その他設備	254

なお、当連結会計年度において重要な設備の除去、売却等はありません。

## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物・ 構築物	機械装置 ・運搬具	土地 (面積 千㎡)	工具器具 ・備品	リース 資産		合計
鶴見事業所 (横浜市鶴見区)	全社共通管理部門、 発電システム部門	その他設備	47	—	— (—)	70	—	118	618
川崎事業所 (川崎市幸区)	全社共通管理部門、 社会・産業システム 部門	その他設備	82	—	— (—)	165	8	256	519
磯子事業所 (横浜市磯子区)	発電システム部門	その他設備	15	—	— (—)	60	—	76	518
府中事務所 (東京都府中市)	社会・産業システム 部門、発電システム 部門	生産設備・ その他設備	37	—	— (—)	51	—	89	525
京浜事務所 (横浜市鶴見区)	社会・産業システム 部門、発電システム 部門	その他設備	3	—	— (—)	13	—	17	295
厚木工場・厚木技 術開発センター・ 厚木機材センター (神奈川県厚木市)	全社共通	研究開発・ 生産設備・ その他設備	417	130	2,109 (33)	43	—	2,700	52
千葉サービス センター (千葉県市原市)	社会・産業システム 部門	生産設備	41	33	113 (5)	1	—	190	17
関西支社 (大阪市北区) 他10支社店	社会・産業システム 部門、発電システム 部門	その他設備	2	—	— (—)	19	11	33	259
その他	全社共通	生産設備・ その他設備	983	56	1,129 (119)	31	21	2,224	368
合計			1,631	222	3,353 (158)	458	41	5,706	3,171

(注) 1 当社は、平成22年7月1日付で本店を鶴見事業所(横浜市鶴見区)に移転しました。なお、これに伴い、東京事業所(東京都大田区)は平成22年6月30日付で閉鎖しました。

2 その他の土地及び建物の主なものは、次のとおりであります。

所在地	セグメントの名称	帳簿価額(百万円)		用途
		建物	土地	
新潟県柏崎市	発電システム部門	95	540	宿舎及び倉庫他
福井県敦賀市	発電システム部門	91	327	宿舎及び倉庫
青森県上北郡横浜町	発電システム部門	279	93	宿舎

3 主要な賃借設備は、次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料(百万円)
鶴見事業所 (横浜市鶴見区)	全社共通管理部門、発電システム部門	その他設備	182
川崎事業所 (川崎市幸区)	全社共通管理部門、社会・産業システム部門	その他設備	231
磯子事業所 (横浜市磯子区)	発電システム部門	その他設備	51

(2) 国内子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物・ 構築物	機械装置 ・運搬具	土地 (面積 千㎡)	工具器具 ・備品	リース 資産	合計	
芝浦プラント 株式会社	本社 (横浜市 磯子区)	発電システム部 門、社会・産業 システム部門	その他 設備	—	—	— (—)	1	—	1	40
芝浦プラント 株式会社	厚木 事業所 (神奈川県 厚木市)	発電システム部 門、社会・産業 システム部門	その他 設備	—	—	— (—)	1	—	1	15
芝浦プラント 株式会社	その他	発電システム部 門、社会・産業 システム部門	その他 設備	477	8	1 (0)	57	—	545	110
関西東芝エン 지니어リング 株式会社	堺事業所 (大阪府 堺市)	社会・産業シス テム部門	その他 設備	52	1	88 (0)	6	—	148	65
関西東芝エン 지니어リング 株式会社	大阪 事業所 (大阪市 中央区)	社会・産業シス テム部門	その他 設備	2	—	— (—)	2	—	4	49
東芝エンジニ アリングサー ビス株式会社	本社 (横浜市 鶴見区)	その他	その他 設備	0	—	— (—)	1	—	1	113
イーエス東芝 エンジニアリ ング株式会社	本社 (川崎市 幸区)	発電システム、 社会・産業シス テム部門	その他 設備	0	—	— (—)	0	—	0	143
株式会社エ ス・ケー・エ ス	本社 (横浜市 鶴見区)	その他	その他 設備	0	—	— (—)	—	0	1	71

## (3) 在外子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物・ 構築物	機械装置 ・運搬具	土地 (面積 千㎡)	工具器具 ・備品	合計	
PT. TOSPLANT ENGINEERING INDONESIA	本社 (インドネ シア国)	発電システム部 門	その他 設備	—	0	— (—)	0	0	7
TPSC (INDIA) PRIVATE LIMITED	本社 (インド 国)	発電システム部 門	その他 設備	27	11	— (—)	55	93	174
TPSC ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.	本社 (マレーシ ア国)	発電システム部 門	その他 設備	—	—	— (—)	0	0	3
TOSPLANT ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.	本社 (タイ国)	社会・産業シス テム部門	その他 設備	0	8	— (—)	1	9	18
TPSC (THAILAND) CO., LTD.	本社 (タイ国)	発電システム部 門	その他 設備	—	—	— (—)	1	1	9
TPSC US CORPORATION	本社 (米国)	発電システム部 門	その他 設備	—	—	— (—)	—	—	2

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

主に生産設備及び情報機器設備の更新で、897百万円を予定しております。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	265,000,000
計	265,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年6月23日)	上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	97,656,888	97,656,888	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数1,000株
計	97,656,888	97,656,888	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成16年1月1日	29,700	97,656	—	11,876	2,503	20,910

(注) 東芝エンジニアリング株式会社との合併による増加です。

なお、合併に際し、東芝エンジニアリング株式会社の株式1株に対して、当社の株式1.65株を割当てております。

#### (6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	1	37	26	68	167	2	2,484	2,785	—
所有株式数 (単元)	4	8,558	271	61,190	18,671	3	8,654	97,351	305,888
所有株式数 の割合(%)	0.00	8.79	0.28	62.86	19.18	0.00	8.89	100.00	—

(注) 自己株式223,296株は「個人その他」に223単元及び「単元未満株式の状況」に296株を含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社東芝	東京都港区芝浦1丁目1番1号	58,242	59.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	3,109	3.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,181	2.23
東芝保険サービス株式会社	東京都港区芝浦3丁目4番1号	1,600	1.64
アールビーシーデクシアインベスターサービスバンク アカウントディーユービーノンレジデントドメスティ ックレート (常任代理人 スタンダードチャータード銀行)	14, PORTE DE FRANCE, L-4360 ESCH-SUR-ALZETTE GRAND DUCHY OF LUXEMBOURG (東京都千代田区永田町2丁目11番1号)	1,521	1.56
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンド ン エス エル オムニバス アカウント (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営 業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16番13号)	1,391	1.42
東芝プラントシステム従業員持株会	横浜市鶴見区鶴見中央4丁目36番5号	1,317	1.35
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュ ラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号)	1,149	1.18
ビービーエイチ エスイーアイ インステイ インベスト メンツ ワールドエクイティ イーエツクスユーエス フ アンド ジョーハンプロ (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	1 FREEDOM VALLEY DRIVE OAKS PENNSYLVANIA 19456 (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	906	0.93
東芝プラントシステム協会持株会	川崎市幸区大宮町1310	877	0.90
計	—	72,296	74.03

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 223,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 97,128,000	97,128	—
単元未満株式	普通株式 305,888	—	—
発行済株式総数	97,656,888	—	—
総株主の議決権	—	97,128	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には当社所有の自己株式296株が含まれております。

②【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東芝プラントシステム株式会社	横浜市鶴見区鶴見中央 4丁目36番5号	223,000	-	223,000	0.23
計	-	223,000	-	223,000	0.23

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	5,242	5,722,369
当期間における取得自己株式	-	-

(注)「当期間における取得自己株式」には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行っ た取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	223,296	-	223,296	-

(注)「当期間における保有自己株式数」には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社の配当政策は、安定的かつ継続して配当することを基本としておりますが、当該期の業績及び今後の業績を勘案した上で行うこととしております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。なお、これらの剰余金の配当の決定機関は、取締役会であります。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、株主総会の決議によらず取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記の方針に基づき、1株当たり15円の配当(うち中間配当7円50銭)を実施する旨決定いたしました。

内部留保金につきましては、財務体質を強化し、今後の事業発展に備えるとともに、経営環境の変化などに柔軟に対応するために有効活用してまいります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年10月29日 取締役会決議	730	7.5
平成23年4月28日 取締役会決議	730	7.5

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	914	1,249	1,077	1,319	1,298
最低(円)	470	701	582	842	650

(注) 株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	1,125	1,125	1,189	1,219	1,185	1,131
最低(円)	1,047	1,042	1,012	1,107	1,064	650

(注) 株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 取締役社長	—	佐藤 健次	昭和26年9月22日生	昭和50年4月 平成13年4月 平成15年7月 平成16年1月 平成17年6月 平成19年6月 平成20年6月 平成21年6月 平成23年6月	東京芝浦電気(現(株)東芝)入社 同社電力システム社原子力事業部原子力運転プラント技術部長 東芝エンジニアリング(株)入社、情報・原子力事業本部原子力・応用システム事業部長 当社原子力事業部副事業部長 執行役員、原子力事業部長 取締役、常務、原子力事業部長 取締役、上席常務、原子力事業部長 取締役、専務、社長補佐、原子力事業部長 代表取締役、取締役社長、社長(現在)	(注)4	8
取締役	産業システム 事業部長	藤巻 正良	昭和27年3月23日生	昭和49年3月 平成17年7月 平成19年6月 平成20年4月 平成20年6月 平成21年6月 平成22年6月	当社入社 中部支社長 執行役員、建設・保全サービス事業部副事業部長 執行役員、産業システム事業部副事業部長 取締役、常務、イノベーション推進部長兼産業システム事業部副事業部長 取締役、上席常務、産業システム事業部長 取締役、専務、社長補佐、産業システム事業部長(現在)	(注)4	15
取締役	電力事業・ 技術企画部担当	和泉 敦彦	昭和28年4月13日生	昭和53年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年6月 平成22年6月 平成23年1月 平成23年6月	東京芝浦電気(現(株)東芝)入社 同社電力システム社火力・水力事業部長 同社電力システム社副社長 同社執行役常務、電力システム社副社長 当社入社、社長附 取締役、専務、社長補佐、火力事業担当 取締役、専務、社長補佐、電力事業担当 取締役、専務、社長補佐、電力事業・技術企画部担当(現在)	(注)4	5
取締役	総務部長 輸出管理部長	畑野 耕逸	昭和28年10月26日生	昭和51年4月 平成17年1月 平成19年4月 平成19年6月 平成19年6月 平成20年6月	東京芝浦電気(現(株)東芝)入社 同社人事・業務企画部長 同社人事部長 当社入社、総務部長附 取締役、常務、総務部長兼輸出管理部長 取締役、上席常務、総務部長兼輸出管理部長(現在)	(注)4	7
取締役	電力プラント 事業部長	豊住 隆寛	昭和28年2月14日生	昭和52年4月 平成17年4月 平成18年2月 平成19年4月 平成19年10月 平成21年6月 平成21年6月 平成23年1月	東京芝浦電気(現(株)東芝)入社 同社経営変革推進本部経営変革推進室長 同社イノベーション推進本部経営変革推進室長 同社電力システム社理事 同社電力システム社経営変革統括責任者 当社入社、電力事業部長附 取締役、上席常務、電力事業部長 取締役、上席常務、電力プラント事業部長(現在)	(注)4	7
取締役	経理部長 J-SOX対応 推進部長	飯嶋 孝國	昭和28年6月13日生	昭和52年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成20年6月 平成23年6月	東京芝浦電気(現(株)東芝)入社 同社産業システム社経理部長 同社電力流通・産業システム社経理部長 当社入社、経理部長附 取締役、常務、経理部長兼J-SOX対応推進部長 取締役、上席常務、経理部長兼J-SOX対応推進部長(現在)	(注)4	7

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	社会インフラ 事業部長	加藤 高敏	昭和28年1月26日生	昭和50年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月	東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社 同社社会システム社水・環境システム 技師長 当社入社、社会インフラ事業部長附 取締役、常務、社会インフラ事業部長 (現在)	(注)4	7
取締役	調達部長	中山 泰雄	昭和27年10月6日生	昭和51年4月 平成18年6月 平成20年6月 平成21年6月	当社入社 東北支社長 執行役員、調達部長 取締役、常務、調達部長(現在)	(注)4	7
取締役	原子力事業部長	芳賀 俊一	昭和30年1月18日生	昭和53年3月 平成13年10月 平成16年1月 平成16年4月 平成17年4月 平成18年10月 平成20年6月 平成21年6月 平成23年6月	東芝エンジニアリング(株)入社 同社情報・原子力事業本部原子力・応 用システム事業部プラント設計部長 当社原子力事業部原子力プラント設計 部長 原子力事業部原子力機械システム設計 部長 原子力事業部原子力営業技術部長 原子力事業部副事業部長 執行役員、原子力事業部副事業部長 取締役、常務、イノベーション推進部 長 取締役、常務、原子力事業部長(現在)	(注)4	7
取締役	経営企画部長	奥谷 徹郎	昭和29年5月2日生	昭和54年4月 平成18年4月 平成18年10月 平成20年6月 平成20年6月 平成23年6月	東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社 同社電力システム社企画部長 同社電力システム社企画部長兼 J-S OX 対応推進部長 当社入社、経営企画部理事 執行役員、経営企画部長 取締役、常務、経営企画部長(現在)	(注)4	6
取締役	イノベーション 推進部長	岸 哲也	昭和29年9月9日生	昭和52年4月 平成17年7月 平成19年6月 平成21年6月 平成23年6月	当社入社 建設・保全サービス事業部建設・保全 企画部長 監査部長 執行役員、監査部長 取締役、常務、イノベーション推進部 長(現在)	(注)4	8
常勤監査役	—	菊地 文夫	昭和27年10月11日生	昭和51年4月 平成11年10月 平成14年1月 平成18年6月 平成19年6月	当社入社 経理部主計部長 電力事業部電力企画部長 監査部長 常勤監査役(現在)	(注)5	6
常勤監査役	—	田名邊 俊一	昭和30年8月18日生	昭和54年4月 平成16年1月 平成21年5月 平成23年6月	当社入社 経理部原価管理部長 監査部参事 常勤監査役(現在)	(注)5	5
監査役	—	前川 治	昭和29年12月4日生	昭和56年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成23年6月	東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社 同社電力システム社原子力技師長 同社電力システム社統括技師長兼品質 統括責任者兼燃料電池事業開発室長 同社電力システム社統括技師長兼品質 統括責任者兼燃料電池事業開発室長兼 電力・社会システム技術開発センター 長、当社監査役 同社執行役常務、電力システム社統括 技師長兼品質統括責任者兼燃料電池事 業開発室長兼電力・社会システム技術 開発センター長、当社監査役(現在)	(注)6	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	—	原園 浩一	昭和34年1月10日生	昭和56年4月 平成18年4月 平成19年10月 平成20年4月 平成21年4月 平成23年4月 平成23年6月 東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社 同社電力システム社電力流通事業部電力流通営業部グループ(電力流通第一担当)グループ長 同社電力システム社電力流通事業部電力流通営業部長 同社電力流通・産業システム社電力流通システム事業部電力流通営業部長 同社電力流通・産業システム社電力流通システム事業部営業統括部長 同社社会インフラシステム社営業統括責任者 同社社会インフラシステム社営業統括責任者、当社監査役(現在)	(注)7	—
監査役	—	長屋 文裕	昭和40年11月27日生	平成3年4月 平成12年4月 平成15年3月 平成16年4月 平成21年3月 平成21年6月 平成22年6月 判事補任官 検事転官 判事任官 最高裁判所調査官 退官 弁護士登録 弁護士、当社監査役(現在)	(注)7	—
計						95

- (注) 1 監査役 前川 治、同 原園浩一、同 長屋文裕の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 略歴欄に記載の社長、専務、上席常務、常務は執行役員としての役位であり、取締役全員が執行役員を兼務しております。
- 3 当社は平成16年1月1日付で執行役員制度を導入しております。執行役員の員数は18名で、上記の取締役兼務者を除く執行役員の構成は、執行役員 高力澄夫、同 今野義雄、同 河合伸保、同 竹下隆三、同 鳥越克彦、同 齋藤靖之、同 亀井孝一となっております。
- 4 平成23年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
- 5 平成23年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 6 平成20年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 7 平成22年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- なお、監査役 原園浩一氏は、前監査役 土光辰夫氏の辞任に伴い、平成23年6月23日付で当社の監査役に就任しており、その任期は前任者の残存任期となっております。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 1. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の効率性を高め、健全性と透明性を確保し、リスク管理体制並びに法令遵守等を推進することにより、企業価値の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な目的としております。

コーポレート・ガバナンスを充実させることで、お客様、株主様等のステークホルダーとの良好な信頼関係を築くことを重要な経営施策と位置づけております。

#### 1) 企業統治の体制

当社は、監査役会設置会社であり、取締役11名、社外監査役3名を含む5名の監査役を株主総会で選任し、経営の効率性の向上と透明性の確保に努めております。

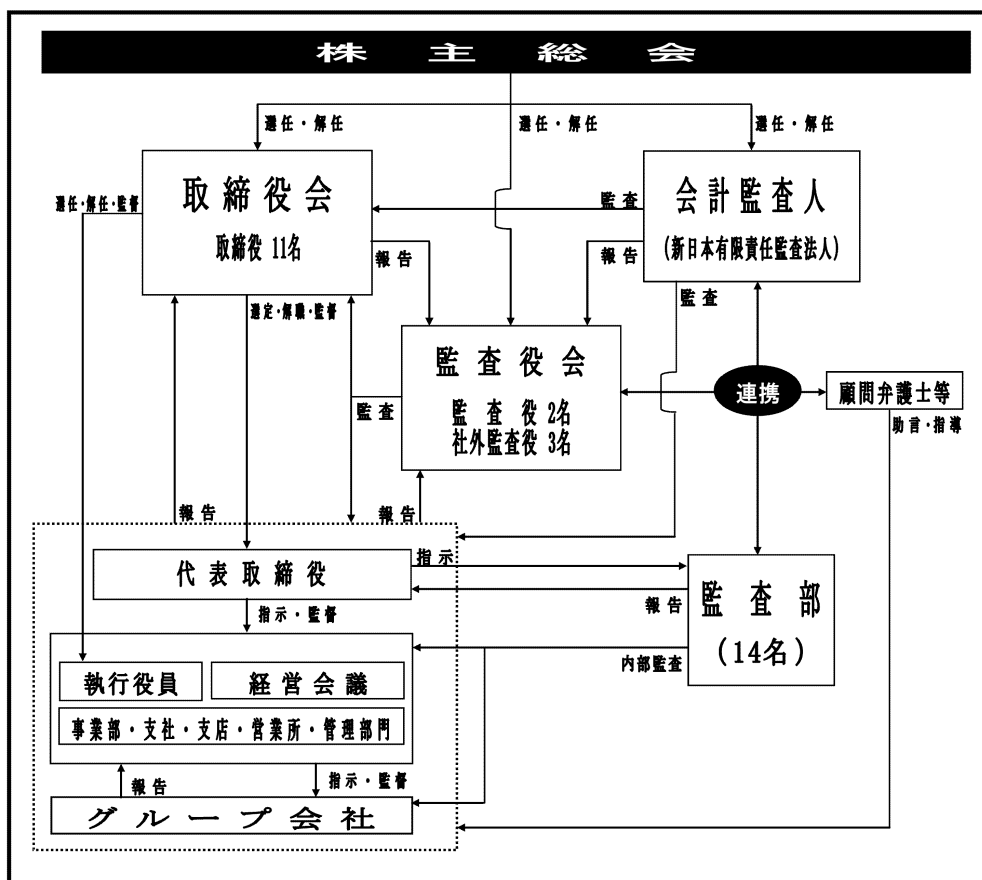
取締役の任期は、経営環境の変化に柔軟に対応するとともに、経営責任を明確にするため、定款の定めにより1年としております。また、当社は、経営の意思決定と監督機能を業務執行機能と分離させることにより、急速な事業環境の変化並びに企業間競争等に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しております。

当社は、社外取締役を選任しておりませんが、取締役会の監督機能を十分に発揮するため、当社事業に精通した取締役に構成する取締役会において、各取締役から業務執行状況に関して適時適切な報告を受け、妥当性・合理性等の観点から効率的かつ実効的に監視・監督するとともに、監査役5名の内、3名を社外監査役とすることで、監査役会の機能強化と独立性の向上を図り、公正かつ健全で質の高い経営の実現を目指しております。

当社は、内部統制システムの一環として、諸規定を整備し、取締役及び使用人等の監査役への報告体制を構築するとともに、監査役に対して、取締役会のほか、経営会議その他重要な会議への出席機会を提供するなど、監査役が重要な意思決定過程や業務執行状況等を適時的確に把握し、必要に応じて助言や意見表明等を行える体制を整備しております。更には、監査役監査が実効的に行われることを確保するための体制として、監査役の職務を補助するための使用人を設置するとともに、取締役社長と監査役との意見交換の場を定期的に設け、当社の経営方針や対処すべき課題のほか、監査上の重要課題等について意見交換を実施し、相互認識と信頼関係の醸成に努めております。また、監査役は、内部監査部門及び主に内部統制業務を所掌する総務部、経理部並びに会計監査人と緊密に連携し、必要に応じて外部有識者に助言等を求めるなど、監査役監査の実効性の維持・向上に努めております。以上のことから、当社は、現状の体制により経営に対する監視機能は十分に機能していると認識しております。当社は、今後も取締役及び使用人等に対して監査役監査の重要性・有用性等を浸透させるとともに、コーポレート・ガバナンスの更なる強化・充実に向けて取り組んでまいります。

(体制図)

(平成23年6月23日現在)



## 2) 内部統制システムの整備の状況

当社は、経営の有効性と効率性、財務報告の信頼性の確保及び法令の遵守等のリスク管理の徹底が重要な経営の責務と認識していることから、会社法第362条第4項第6号に規定する「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備」について、会社法第362条第5項の規定に基づき、取締役会において、次のとおり決議し、業務の適正性の確保に努めております。

### (1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①取締役は、法令、社会規範、倫理及び当社独自の行動規範である「東芝プラントシステム行動基準」などを遵守し、当社におけるコンプライアンス体制を確保する。
- ②取締役会は、定期的に取り締役から職務執行状況の報告を受けるとともに、必要事項について取締役に随時取締役会で報告させる。
- ③監査役は、「監査役監査基準」、「監査方針」、「年度監査計画」等に基づき、取締役の職務の執行を監査する。

### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ①当社は、取締役の職務執行に係る情報について、全社を統括する部門を定め、「規定管理規程」、「文書管理規程」等に基づき、当該情報を文書又は電磁的媒体等に記録し、適切かつ確実に管理する。
- ②当社は、取締役の職務執行に係る情報について、保存年限に関する規定等を定め、各所管部門が適正な期間、検索性の高い状態で当該情報を保存・管理し、常時閲覧可能な状態を維持する。

### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①当社は、リスク管理体制の基礎として、「リスク・コンプライアンスマネジメント基本規程」及び「ビジネスリスクマネジメント基本規程」等を定め、リスク管理に関する統括部門を設置する。また、当社の事業に係るリスクを「リスク・テーブル」で以下の区分に分類し、リスクの種類に応じて所管部門を定め、迅速かつ確にリスクを把握するとともに、合理的かつ有効に管理できる体制を整備する。
  - (イ) 経営リスク
  - (ロ) 災害・事故リスク
  - (ハ) 社会リスク
- ②取締役は、リスクが顕在化した場合に備え、リスクの継続的な把握に努めるとともに、リスクに関する施策を立案・推進する。
- ③リスクが顕在化した場合は、当社の報告体制に基づき、迅速かつ確に当該リスクに関する情報を関係部門に伝達し、リスクの種類に応じて取締役社長又はCRO(Chief risk-compliance Management Officer)等の指示のもと、リスク・コンプライアンス委員会等を招集するとともに、必要に応じて顧問弁護士等を含めた対策チームを組織し、当該リスクに対して合理的かつ有効に対応することに努め、損失の最小化及び企業価値の最大化を図る。

### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①当社は、取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、原則毎月1回取締役会を開催するとともに、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るため、原則毎月2回経営会議を開催し、当社の経営方針及び経営戦略に係る重要な業務執行並びに中期経営計画、年度予算等を審議・決定する。
- ②当社は、「組織規程」に基づき組織機構、業務分掌及び役職者職務等を定め、使用人等の権限及び責任を明確化し、業務の組織的かつ効率的な運営を図る。
- ③当社は、「取締役会規則」、「経営会議規程」及び「決裁権限規程」等に基づき、適切な手続に則って業務執行の意思決定を行う。
- ④取締役は、年度予算の達成フォロー及び適正な業績評価を適時適切に行う。
- ⑤当社は、情報セキュリティ体制の強化を推進するとともに、基幹システム等の情報処理システムを適切かつ合理的に運用する。

### (5) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①当社は、法令、社会規範、倫理などの遵守を重要視し、コンプライアンス体制を確保するために、継続的な教育の実施等により、使用人に対し当社独自の行動規範である「東芝プラントシステム行動基準」を遵守させる。
- ②当社は、内部監査部門を設置し、「内部監査規程」の定めに基づき、各組織及び当社グループ会社の業務監査、会計監査及びシステム監査を適切かつ合理的に実施する。また、内部監査部門は、監査全般について監査役と緊密に連携し、業務を遂行する。
- ③当社は、法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実の社内報告体制の一環として、「リスク・コンプライアンスマネジメント基本規程」に基づき、内部通報制度を構築し、当該制度を活用することにより、リスクの早期発見と迅速かつ確に対応できる体制を整備する。
- ④監査役は、当社の法令遵守体制及び内部通報制度等の運用に問題があると判断した場合は、取締役に對し意見を述べるとともに、必要に応じて、都度取締役及び使用人に対して直接意見を求める。

**(6) 当社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

- ①当社は、当社グループにおける業務の適正を確保するため、子会社に対し、「東芝プラントシステム行動基準」及び当社の各種コンプライアンス規定等に準拠した規定を策定することを要請する。
- ②当社は、「関係会社管理規程」に基づき各子会社の所管部門を定め、業務の遂行にあたっては子会社と連携を図ることとし、当社への事前決裁及び報告体制については、その取り扱いを明確にし、必要に応じて都度子会社に対して事業の育成・支援、モニタリング等を行う。
- ③各子会社に対しては、当社の内部監査部門が計画的に業務監査、会計監査及びシステム監査を実施する。
- ④当社は、子会社に対し、「内部監査規程」に準拠した監査体制を構築することを要請する。
- ⑤取締役及び監査役は、親会社である株式会社東芝の監査委員会と適時適切な連携を図ることとし、必要に応じて同監査委員会に対し意見を述べるとともに、改善策の策定等を求める。

**(7) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項**

当社は、総務部等に所属する使用人に監査役の職務を補助させる。

**(8) 監査役を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項**

当社は、監査役職務を補助する使用人の解任、人事異動等に関して事前に監査役に報告し、監査役は必要がある場合に、意見を申し述べることができる。

**(9) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制**

- ①取締役及び使用人は、「監査役に対する報告等に関する規程」等に基づき、会社に著しい損害を及ぼすおそれがある事実を発見したときは、直ちにこれを監査役に報告する。
- ②取締役は、監査役と協議の上、監査役会に報告すべき事項を定め、当該事項に関し、監査役会に実効的かつ機動的な報告がなされるよう社内体制を整備する。
- ③取締役は、監査役に対し取締役会、経営会議、その他重要な会議等への出席の機会を提供し、監査役が重要な意思決定の過程及び業務の執行状況等を適時的確に把握でき、意見を述べることができる体制を整備する。

**(10) その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制**

- ①取締役社長は、監査役会が定める「監査役会規則」に基づき、監査役と定期的に意見の交換等を行う。
- ②取締役及び使用人は、監査役会が定める「監査方針」及び「年度監査計画」に基づく監査役の定期的な監査及びヒアリング等を通じ、職務執行状況等を監査役に報告する。
- ③監査役は、会社の業務及び財産の状況の調査その他の監査職務の遂行にあたり、内部監査部門及び会計監査人と緊密に連携するとともに、必要に応じて弁護士等の外部有識者とも連携し、効率的な監査を実施する。

3) リスク管理体制の整備の状況

当社は、当社独自の行動規範である「東芝プラントシステム行動基準」をはじめとする諸規定を整備するとともに、「リスク・コンプライアンスマネジメント基本規程」に基づき、法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実の社内報告体制の一環として「内部通報制度」を構築し、また、必要に応じて「リスク・コンプライアンス委員会」を開催するなど、リスクの早期発見と迅速かつ的確に対応できる体制の整備に努めております。

4) 内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査機能を担う組織として監査部（14名）を設置し、年度計画に基づき、当社の各組織及び当社グループ各社の業務監査、会計監査及びシステム監査を実施しております。

監査部は、合法性かつ合理性と効率性の観点から、公正かつ独立の立場で各組織のコンプライアンス、リスクマネジメント及びガバナンス・プロセスの有効性並びに経営諸活動の遂行状況等を検討・評価し、改善のための意見・助言・勧告を行う監査業務機能を有しており、監査全般について監査役及び主に内部統制業務を所掌する総務部、経理部等とも緊密に連携し、監査業務に係わる情報の共有化を図っております。

また、監査役会は、社外監査役3名を含む5名で構成されており、「監査役会規則」に基づき、原則毎月1回開催され、意見交換等を行い情報の共有化を図るとともに各監査役から監査事項等に関する報告を受け、協議又は決議を行っております。各監査役は、監査役会で定めた監査役監査基準や監査方針、年度監査計画等に従い、独立した機関として、当社事業に対する理解の浸透や積極的な情報収集に努め、経営状態や財政状況の調査等を通じ、取締役の業務執行を公正かつ実効的に監査するとともに、内部監査部門及び主に内部統制業務を所掌する総務部、経理部並びに会計監査人と緊密に連携し、また、必要に応じて弁護士等の外部有識者に助言等を求めるなど、監査役会の機能強化に努めております。

なお、常勤監査役 菊地文夫、田名邊俊一の両氏は、当社の経理部門の業務を長年にわたって経験しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

5) 会計監査の状況

会計監査人である新日本有限責任監査法人は、法定の会計監査を実施しております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数は以下のとおりであります。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員	原 一浩	新日本有限責任監査法人
業務執行社員	野水 善之	

(注) 1 継続監査年数は7年以内であるため、記載を省略しております。

2 同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

また、監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

公認会計士2名、その他2名

監査役は、業務監査・会計監査を実施するほか、監査部及び会計監査人から、随時監査結果に関し報告及び説明を受けるなど、相互連携を図っております。

6) 役員の報酬等の額及びその算定方法の決定に関する方針等について

(1) 役員区分ごとの報酬等の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	
取締役	133	89	44	11
監査役 (社外監査役を除く)	20	15	5	1
社外役員	23	18	5	2

(注) 1 当事業年度末現在の取締役及び監査役の員数は、取締役11名、監査役5名（無報酬の社外監査役2名を含む。）であります。

2 取締役の報酬等の限度額は、平成21年6月25日開催の第103期定時株主総会において年額320百万円以内(使用人兼務取締役の使用人分給与を含まない。)と決議いただいております。

3 監査役の報酬等の限度額は、平成21年6月25日開催の第103期定時株主総会において年額100百万円以内と決議いただいております。

4 上記のほか、社外監査役が当社の親会社又は当該親会社の子会社から受けた役員としての報酬はありません。

5 上記のほか、使用人兼務取締役に対する使用人分給与として、取締役10名に対し150百万円を支給しております。

(2) 役員の報酬等の算定方法の決定に関する方針

当社の役員の報酬等は、基本報酬と付加報酬により構成され、当該期の業績及び財務状況等を総合的に勘案し加算減算の上、取締役については取締役会の決議に基づき、また、監査役については監査役の協議に基づき、決定しております。

7) 株式の保有状況

(1) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
14銘柄 558百万円

(2) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東京電力(株)	1,000,000	2,492	取引関係維持強化
昭和電線ホールディングス(株)	164,500	15	取引関係維持強化
新日本製鐵(株)	32,300	11	取引関係維持強化
オルガノ(株)	15,000	9	取引関係維持強化
京浜急行電鉄(株)	11,000	8	取引関係維持強化
芝浦メカトロニクス(株)	10,000	3	取引関係維持強化
(株)日本製紙グループ本社	900	2	取引関係維持強化

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東京電力(株)	1,000,000	466	取引関係維持強化
昭和電線ホールディングス(株)	164,500	17	取引関係維持強化
新日本製鐵(株)	32,300	8	取引関係維持強化
オルガノ(株)	15,000	9	取引関係維持強化
(株)日本製紙グループ本社	900	1	取引関係維持強化

2. コーポレート・ガバナンスに関する諸施策の実施状況

1) 会社の経営上の意思決定、執行及び監督に関わる経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

当社は、取締役11名により構成される取締役会において、重要な経営事項の審議・決定並びに各取締役・執行役員等の業務執行を監督するとともに、経営会議において、当社の経営方針及び経営戦略に係る重要な業務執行並びに中期経営計画、年度予算等を審議・決定しております。社外監査役3名を含む5名の監査役には、取締役会及び経営会議をはじめとする重要な会議への出席の機会を提供し、チェック機能の強化に努めております。また、会計監査人と緊密に連携するとともに、必要に応じて弁護士等の外部有識者に専門的見地からの助言・指導を求めています。

- 2) 会社と社外監査役との人的関係、資本的关系又は取引関係その他利害関係の概要及び選任状況に関する考え方  
当社の社外監査役は3名であります。

社外監査役 前川 治、同 原園浩一の両氏は、当社の親会社である株式会社東芝の業務執行者であります。また、社外監査役 長屋文裕氏は弁護士であり、社外監査役3氏と当社との間には取引関係その他利害関係はありません。

当社の社外監査役は、監査役会や監査役相互の意見交換の場を有効に活用するとともに、内部監査部門や主に内部統制業務を所掌する総務部、経理部並びに会計監査人と緊密に連携し、また、必要に応じて取締役や使用人等から報告を求めるなど、当社事業に対する理解の浸透や積極的な情報開示に努め、公正中立な第三者的立場から、意思決定過程の監視等を通じ、当社の経営全般について、善管注意義務や忠実義務等に照らして、その知識と経歴、専門性等に基づき適法性・倫理性を重視し、必要に応じて助言や意見表明を行うなど、経営監視能力を十分に発揮し、社外監査役としての職務を適正に遂行しております。

当社は、当社が目指す公正かつ健全で質の高い経営の実現に向けて、当社のコーポレート・ガバナンス体制が実質的に機能していることが極めて重要であると考えており、独立性の確保と実効性の確保の両面を勘案した上で、当社にとって最適なガバナンス構造が形成できるよう努めております。したがって、社外監査役の選任に際しては、独立性や中立性のほか、当社事業への精通性や専門性、経験等を重視し、多様な観点から、企業価値向上に資する体制の確保に向けて総合的に判断しております。

### 3. 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

### 4. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

### 5. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）が、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるよう取締役会の決議によって法令の定める範囲内で責任を免除することができる旨並びに社外取締役及び社外監査役として優秀な人材を確保するために社外取締役及び社外監査役の責任を法令の定める限度に制限する契約を締結できる旨を定款に定めております。

### 6. 責任限定契約の内容

当社は、社外監査役 長屋文裕氏との間に、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任について、法令が定める額を限度として責任を負担する契約を締結しております。なお、当該責任限定が認められるのは、同氏が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がない場合に限定しております。

### 7. 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、機動的な資本政策及び配当政策を遂行することを目的とするものであります。

### 8. 積極的な情報開示

当社は、経営の透明度を高めるために、積極的な開示を行うことを基本に、プレス発表を随時実施するほか、当社ホームページ上でIR情報やニュースリリースの開示を行っております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
提出会社	43	—	40	2
連結子会社	—	—	—	—
計	43	—	40	2

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度及び当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、子会社設立に伴う助言及び各種証明業務を委託し、対価を支払っております。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬につきましては、当社の規模、業務特性等を勘案し、監査項目及び適切な監査日数等を協議して決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

なお、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第2条に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

なお、前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の連結財務諸表並びに第104期事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び第105期事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナー等への参加をしております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	2,167	4,308
グループ預け金	29,060	37,425
受取手形・完成工事未収入金等	76,181	78,938
未成工事支出金等	※1 16,207	17,980
繰延税金資産	4,657	4,541
その他	2,075	4,935
貸倒引当金	△14	△202
流動資産合計	130,334	147,927
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	8,405	8,712
減価償却累計額	△6,306	△6,519
建物・構築物(純額)	2,099	2,192
機械・運搬具	2,584	2,608
減価償却累計額	△2,336	△2,359
機械・運搬具(純額)	248	249
工具器具・備品	4,338	4,324
減価償却累計額	△3,690	△3,735
工具器具・備品(純額)	648	588
土地	3,442	3,443
リース資産	35	44
減価償却累計額	△16	△8
リース資産(純額)	19	36
有形固定資産合計	6,457	6,510
無形固定資産		
投資その他の資産	149	133
投資有価証券	※2 2,766	※2 744
長期貸付金	2	2
繰延税金資産	10,404	11,281
その他	1,081	853
貸倒引当金	△233	△119
投資その他の資産合計	14,021	12,763
固定資産合計	20,628	19,408
資産合計	150,962	167,335

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	24,680	34,965
未払法人税等	5,105	5,711
未成工事受入金	3,687	3,778
役員賞与引当金	63	70
完成工事補償引当金	1,005	857
工事損失引当金	※1 434	—
その他	9,491	9,166
流動負債合計	44,468	54,551
固定負債		
退職給付引当金	25,527	27,553
役員退職慰労引当金	40	36
その他	99	145
固定負債合計	25,668	27,736
負債合計	70,136	82,287
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,876	11,876
資本剰余金	20,910	20,910
利益剰余金	48,170	52,450
自己株式	△132	△138
株主資本合計	80,824	85,098
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	37	8
為替換算調整勘定	△84	△127
その他の包括利益累計額合計	△47	△118
少数株主持分	48	68
純資産合計	80,825	85,048
負債純資産合計	150,962	167,335

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高		
完成工事高	155,181	151,134
売上原価		
完成工事原価	※3 132,170	※3 127,703
売上総利益		
完成工事総利益	23,011	23,431
販売費及び一般管理費		
従業員給料手当	4,641	4,830
退職給付引当金繰入額	676	595
役員退職慰労引当金繰入額	26	10
役員賞与引当金繰入額	63	70
賃借料	418	342
貸倒引当金繰入額	4	187
その他	4,277	4,239
販売費及び一般管理費合計	※1 10,109	※1 10,277
営業利益	12,902	13,153
営業外収益		
受取利息	96	182
受取配当金	69	87
為替差益	117	—
持分法による投資利益	63	62
保険配当金	120	143
その他	109	92
営業外収益合計	576	568
営業外費用		
為替差損	—	244
固定資産処分損	19	—
貸倒損失	10	—
その他	26	68
営業外費用合計	56	313
経常利益	13,422	13,408
特別利益		
固定資産売却益	※2 106	—
特別利益合計	106	—
特別損失		
本社移転費用	197	—
投資有価証券評価損	—	1,982
特別損失合計	197	1,982
税金等調整前当期純利益	13,332	11,425
法人税、住民税及び事業税	6,159	6,411
法人税等調整額	△666	△749
法人税等合計	5,493	5,662
少数株主損益調整前当期純利益	—	5,763
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	21
当期純利益	7,840	5,741

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	—	5,763
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△29
為替換算調整勘定	—	△43
その他の包括利益合計	—	※2 △72
包括利益	—	※1 5,690
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	5,669
少数株主に係る包括利益	—	20

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
<b>株主資本</b>				
<b>資本金</b>				
前期末残高		11,876		11,876
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		11,876		11,876
<b>資本剰余金</b>				
前期末残高		20,910		20,910
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		20,910		20,910
<b>利益剰余金</b>				
前期末残高		41,791		48,170
当期変動額				
剰余金の配当		△1,461		△1,461
当期純利益		7,840		5,741
当期変動額合計		6,378		4,280
当期末残高		48,170		52,450
<b>自己株式</b>				
前期末残高		△104		△132
当期変動額				
自己株式の取得		△28		△5
当期変動額合計		△28		△5
当期末残高		△132		△138
<b>株主資本合計</b>				
前期末残高		74,473		80,824
当期変動額				
剰余金の配当		△1,461		△1,461
当期純利益		7,840		5,741
自己株式の取得		△28		△5
当期変動額合計		6,350		4,274
当期末残高		80,824		85,098

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	9	37
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	△29
当期変動額合計	27	△29
当期末残高	37	8
為替換算調整勘定		
前期末残高	△147	△84
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63	△42
当期変動額合計	63	△42
当期末残高	△84	△127
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	△138	△47
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	91	△71
当期変動額合計	91	△71
当期末残高	△47	△118
少数株主持分		
前期末残高	45	48
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	19
当期変動額合計	2	19
当期末残高	48	68
純資産合計		
前期末残高	74,381	80,825
当期変動額		
剰余金の配当	△1,461	△1,461
当期純利益	7,840	5,741
自己株式の取得	△28	△5
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	93	△52
当期変動額合計	6,444	4,222
当期末残高	80,825	85,048

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	13,332	11,425
減価償却費	737	743
貸倒損失	10	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	1,982
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	7	189
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	2,214	2,028
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△79	△4
受取利息及び受取配当金	△165	△270
為替差損益 (△は益)	55	△3
有形固定資産売却損益 (△は益)	△106	△1
有形固定資産処分損益 (△は益)	52	28
支払利息	0	—
持分法による投資損益 (△は益)	△63	△62
本社移転費用	197	—
売上債権の増減額 (△は増加)	4,031	△2,776
未成工事支出金等の増減額 (△は増加)	4,683	△1,773
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△596	△2,915
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,846	10,289
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△1,827	130
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4	6
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△297	△147
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△61	△434
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△731	365
未払又は未収消費税等の増減額	916	△491
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	49	—
その他	7	14
小計	15,515	18,324
利息及び配当金の受取額	204	304
利息の支払額	△0	—
本社移転費用の支払額	△1	△178
法人税等の支払額	△6,066	△5,810
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,652	12,640
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△97	△308
定期預金の払戻による収入	91	259
グループ預け金の預入による支出	△1,050	△1,430
グループ預け金の払戻による収入	1,000	1,280
短期貸付けによる支出	△29	△22
短期貸付金の回収による収入	29	21
長期貸付けによる支出	△2	△4
長期貸付金の回収による収入	2	3
有形固定資産の取得による支出	△447	△769
有形固定資産の売却による収入	150	1
無形固定資産の取得による支出	△63	△0
投資有価証券の売却による収入	—	10
長期保証金の支払による支出	△12	△56
長期保証金の返還による収入	61	176

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
その他	△1	28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△368	△809
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	800	—
短期借入金の返済による支出	△800	—
自己株式の取得による支出	△28	△5
配当金の支払額	△1,461	△1,461
少数株主への配当金の支払額	△0	△1
リース債務の返済による支出	△11	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,502	△1,474
現金及び現金同等物に係る換算差額	32	△35
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,814	10,320
現金及び現金同等物の期首残高	22,739	30,554
現金及び現金同等物の期末残高	30,554	40,874

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>1 連結の範囲に関する事項 子会社は全て連結されております。 連結子会社の数 9社 当該連結子会社名は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。</p> <p>2 持分法の適用に関する事項 関連会社は全て持分法が適用されております。 当該関連会社は東芝電力検査サービス㈱の1社であります。</p> <p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項 連結子会社のうち、PT. TOSPLANT ENGINEERING INDONESIA、TOSPLANT ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD. 及びTPSC ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD. の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては同決算日現在の決算財務諸表を採用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。</p> <p>4 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 (イ) 有価証券     その他有価証券(時価のあるもの)         連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。     その他有価証券(時価のないもの)         移動平均法による原価法によっております。 (ロ) デリバティブ     時価法によっております。 (ハ) 未成工事支出金等     主として個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。</p>	<p>1 連結の範囲に関する事項 子会社は全て連結されております。 連結子会社の数 11社 当該連結子会社名は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。 TPSC (THAILAND) CO., LTD. 及びTPSC US CORPORATION については、当連結会計年度において新たに設立したことにより連結の範囲に含めることといたしました。</p> <p>2 持分法の適用に関する事項     同左  (会計方針の変更) 当連結会計年度より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分) 及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日) を適用しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項     同左</p> <p>4 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 (イ) 有価証券     同左  (ロ) デリバティブ     同左  (ハ) 未成工事支出金等     同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>												
<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(イ) 有形固定資産（リース資産を除く） 連結財務諸表提出会社及び連結子会社9社のうち国内連結子会社5社は定率法によっておりますが、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。</p> <p>又、TPSC (INDIA) PRIVATE LIMITEDは定率法、その他の在外連結子会社3社は定額法を採用しております。</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>建物・構築物</td><td>3～60年</td></tr> <tr><td>機械・運搬具</td><td>3～17年</td></tr> <tr><td>工具器具・備品</td><td>2～20年</td></tr> </table> <p>(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法によっております。</p> <p>(ハ) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>(イ) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(ロ) 役員賞与引当金 役員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しております。</p> <p>(ハ) 完成工事補償引当金 完成工事の瑕疵担保の費用に充てるため、過去の完成工事に係る補償費の実績を基に将来の発生見込額を加味して計上しております。</p> <p>(ニ) 工事損失引当金 受注工事の損失に備えるため、連結会計年度末の未引渡工事のうち、大幅な損失が発生すると見込まれ、かつ、連結会計年度末時点で当該損失額を合理的に見積ることが可能な工事について、翌連結会計年度以降の損失見積額を引当計上しております。</p>	建物・構築物	3～60年	機械・運搬具	3～17年	工具器具・備品	2～20年	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(イ) 有形固定資産（リース資産を除く） 連結財務諸表提出会社及び連結子会社11社のうち国内連結子会社5社は定率法によっておりますが、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。</p> <p>又、TPSC (INDIA) PRIVATE LIMITEDは定率法、その他の在外連結子会社5社は定額法を採用しております。</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>建物・構築物</td><td>3～60年</td></tr> <tr><td>機械・運搬具</td><td>3～17年</td></tr> <tr><td>工具器具・備品</td><td>2～20年</td></tr> </table> <p>(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(ハ) リース資産 同左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>(イ) 貸倒引当金 同左</p> <p>(ロ) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(ハ) 完成工事補償引当金 同左</p> <p>(ニ) 工事損失引当金 同左</p>	建物・構築物	3～60年	機械・運搬具	3～17年	工具器具・備品	2～20年
建物・構築物	3～60年												
機械・運搬具	3～17年												
工具器具・備品	2～20年												
建物・構築物	3～60年												
機械・運搬具	3～17年												
工具器具・備品	2～20年												

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>(ホ) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)により定額償却しております。</p> <p>数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法によりそれぞれ発生 of 翌連結会計年度より費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号平成20年7月31日)を適用しております。</p> <p>数理計算上の差異を翌連結会計年度から償却するため、これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は3,724百万円でありま</p> <p>す。</p> <p>(ヘ) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。なお、在外連結子会社4社は引当計上しておりません。</p> <p>(追加情報)</p> <p>当社は、役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく要支給額を計上しておりましたが、平成21年6月25日開催の定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止し、同定時株主総会において役員退職慰労金の打ち切り支給が承認されました。これに伴い、当該役員退職慰労引当金残高48百万円を取崩し、固定負債の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p>	<p>(ホ) 退職給付引当金</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <hr style="width: 20%; margin: 10px auto;"/> <p>(ヘ) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。なお、在外連結子会社6社は引当計上しておりません。</p> <hr style="width: 20%; margin: 10px auto;"/>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>(4) 重要な収益及び費用の計上基準 完成工事高及び完成工事原価の計上基準 (イ) 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の 確実性が認められる工事 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比 例法） (ロ) その他の工事 工事完成基準</p> <p>（会計方針の変更） 請負工事に係る収益の計上基準については、従 来、長期大型（工期12ヶ月以上、請負金額10億円以 上）の工事については工事進行基準を、その他の工 事については工事完成基準を適用しておりました が、当連結会計年度より「工事契約に関する会計基 準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及 び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業 会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適 用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当 連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実 性が認められる工事については工事進行基準（工事 の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事 については工事完成基準を適用しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の 基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相 場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理 しております。なお、在外連結子会社等の財務諸表 項目は、当該会社の決算日の直物為替相場により円 貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換 算調整勘定及び少数株主持分に含めております。</p> <p>(6) _____</p> <p>(7) _____</p> <p>(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 (イ) 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>	<p>(4) 重要な収益及び費用の計上基準 完成工事高及び完成工事原価の計上基準 (イ) 同左  (ロ) 同左</p> <p>_____</p> <p>(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の 基準 同左</p> <p>(6) のれんの償却方法及び償却期間 該当事項はありません。</p> <p>(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金 可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスク しか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来 する短期投資からなっております。</p> <p>(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 (イ) 消費税等の会計処理 同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項  連結子会社の資産及び負債の評価については、全  面時価評価法を採用しております。</p> <p>6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項  該当事項はありません。</p> <p>7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金  可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスク  しか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来  する短期投資からなっております。</p>	<p style="text-align: center;">—————</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p style="text-align: center;">—————</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
—————	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響は軽微であります。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(連結損益計算書)</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p>「固定資産処分損」については、前連結会計年度は、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりましたが、当連結会計年度において営業外費用の10/100を超えたため区分掲記することに変更いたしました。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「固定資産処分損」の金額は13百万円であります。</p> <p style="text-align: center;">—————</p>	<p>(連結損益計算書)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年 3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>「固定資産処分損」については、当連結会計年度において営業外費用の100分の10以下でありますので、営業外費用の「その他」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当連結会計年度の営業外費用の「その他」に含まれている「固定資産処分損」の金額は14百万円であります。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>営業活動によるキャッシュ・フローの「投資有価証券評価損益」については、前連結会計年度は、「その他」に含めて表示しておりましたが、当連結会計年度において金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「投資有価証券評価損益」は0百万円であります。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
—————	<p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年 6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<p>※1 損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金等と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。 損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金等のうち、工事損失引当金に対応する額は430百万円であります。</p> <p>※2 このうち関連会社に対する金額は、次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 158 百万円</p> <p>3 偶発債務 下記のもの金融機関借入金について債務保証をしております。 被保証先 金額 従業員(住宅融資金) 1,103百万円</p> <p>4 コミットメントライン契約 短期資金調達のため、取引金融機関4行とコミットメントライン契約を2,800百万円締結しております。当連結会計年度末現在の使用残高はありません。</p>	<p>—————</p> <p>※2 このうち関連会社に対する金額は、次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 186 百万円</p> <p>3 偶発債務 下記のもの金融機関借入金について債務保証をしております。 被保証先 金額 従業員(住宅融資金) 943百万円</p> <p>4 コミットメントライン契約 短期資金調達のため、取引金融機関3行とコミットメントライン契約を2,500百万円締結しております。当連結会計年度末現在の使用残高はありません。</p>

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>※1 一般管理費に含まれる研究開発費 426百万円 当連結会計年度の完成工事原価に含まれている研究開発費はありません。</p> <p>※2 固定資産売却益の主なものは、土地の売却によるものです。</p> <p>※3 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額 65百万円</p>	<p>※1 一般管理費に含まれる研究開発費 464百万円 当連結会計年度の完成工事原価に含まれている研究開発費はありません。 —————</p> <p>※3 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額 2百万円</p>

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

※1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益

親会社株主に係る包括利益 7,931百万円

少数株主に係る包括利益 3

計 7,935

※2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

その他有価証券評価差額金 27百万円

為替換算調整勘定 68

計 96

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	97,656	—	—	97,656
合計	97,656	—	—	97,656
自己株式				
普通株式 (注)	192	25	—	218
合計	192	25	—	218

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加25千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月18日 取締役会	普通株式	730	7.5	平成21年3月31日	平成21年6月8日
平成21年10月30日 取締役会	普通株式	730	7.5	平成21年9月30日	平成21年12月7日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年4月28日 取締役会	普通株式	730	利益剰余金	7.5	平成22年3月31日	平成22年6月7日

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	97,656	—	—	97,656
合計	97,656	—	—	97,656
自己株式				
普通株式 (注)	218	5	—	223
合計	218	5	—	223

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加5千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年4月28日 取締役会	普通株式	730	7.5	平成22年3月31日	平成22年6月7日
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	730	7.5	平成22年9月30日	平成22年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年4月28日 取締役会	普通株式	730	利益剰余金	7.5	平成23年3月31日	平成23年6月6日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金預金勘定 2,167百万円	現金預金勘定 4,308百万円
グループ預け金勘定 29,060百万円	グループ預け金勘定 37,425百万円
計 31,227百万円	計 41,733百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 $\Delta$ 173百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 $\Delta$ 209百万円
預入期間が3ヶ月を超えるグループ預け金 $\Delta$ 500百万円	預入期間が3ヶ月を超えるグループ預け金 $\Delta$ 650百万円
現金及び現金同等物 30,554百万円	現金及び現金同等物 40,874百万円

## (リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引	ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引
① リース資産の内容	① リース資産の内容
有形固定資産	有形固定資産
主として、建設事業における自動車、備品(「機械・運搬具」、「工具器具・備品」)であります。	同左
② リース資産の減価償却の方法	② リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。	同左
オペレーティング・リース取引 (借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料	オペレーティング・リース取引 (借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料
1年内 34百万円	1年内 34百万円
1年超 150百万円	1年超 116百万円
合計 185百万円	合計 150百万円

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、主として東芝グループファイナンス制度による短期的な運用を原則としております。デリバティブは、為替相場の変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、各事業部門における営業部門が主な取引先の状況を管理し、信用状況を1年毎に把握する体制としております。

また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

デリバティブ取引は、外貨建支払いや外貨建収入に対して、為替相場の変動リスクをヘッジする目的で先物為替予約取引を利用してしております。またデリバティブ取引については、信用度の高い金融機関のみを取引相手としているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。デリバティブ取引の実行及び管理は、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、経理部長はデリバティブ取引の契約状況等を半期毎に取締役会にて報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1) 現金預金	2,167	2,167	—
(2) グループ預け金	29,060	29,060	—
(3) 受取手形・完成工事未収入金等	76,167	76,167	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	2,542	2,542	—
資産計	109,937	109,937	—
(1) 支払手形・工事未払金等	24,680	24,680	—
(2) 未払法人税等	5,105	5,105	—
負債計	29,786	29,786	—
デリバティブ取引(*1)	(7)	(7)	—

(\*1)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金預金、(2) グループ預け金、並びに(3) 受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形・工事未払金等、(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	223

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、  
(4)投資有価証券には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金預金	2,156	—	—	—
グループ預け金	29,060	—	—	—
受取手形・完成工事未収入金等	76,181	—	—	—

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、主として東芝グループファイナンス制度による短期的な運用を原則としております。デリバティブは、為替相場の変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、各事業部門における営業部門が主な取引先の状況を管理し、信用状況を1年毎に把握する体制としております。

また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

デリバティブ取引は、外貨建支払いや外貨建収入に対して、為替相場の変動リスクをヘッジする目的で先物為替予約取引を利用してしております。またデリバティブ取引については、信用度の高い金融機関のみを取引相手としているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。デリバティブ取引の実行及び管理は、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、経理部長はデリバティブ取引の契約状況等を半期毎に取締役会にて報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1) 現金預金	4,308	4,308	—
(2) グループ預け金	37,425	37,425	—
(3) 受取手形・完成工事未収入金等	78,736	78,736	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	502	502	—
資産計	121,174	121,174	—
(1) 支払手形・工事未払金等	34,965	34,965	—
(2) 未払法人税等	5,711	5,711	—
負債計	40,677	40,677	—
デリバティブ取引(*1)	27	27	—

(\*1)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については ( ) で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金預金、(2) グループ預け金、並びに(3) 受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形・工事未払金等、(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	242

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、  
 (4)投資有価証券には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金預金	4,291	—	—	—
グループ預け金	37,425	—	—	—
受取手形・完成工事未収入金等	78,736	—	—	—

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1 その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,542	2,482	60
	小計	2,542	2,482	60
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		2,542	2,482	60

(注) 1. 「取得原価」欄には減損処理後の帳簿価額を記載しております。

2. 非上場株式(連結貸借対照表計上額 223百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成23年3月31日)

1 その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	34	23	11
	小計	34	23	11
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	467	468	△0
	小計	467	468	△0
合計		502	491	11

(注) 1. 「取得原価」欄には減損処理後の帳簿価額を記載しております。

2. 非上場株式(連結貸借対照表計上額 242百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について1,982百万円減損処理を行っております。

## (デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
通貨関連

区分	種類	前連結会計年度 (平成22年3月31日)			
		契約額等(百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
			うち1年超 (百万円)		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	2,889	—	△6	△6
	ユーロ	14	—	0	0
	買建				
	米ドル	192	—	△1	△1
	ユーロ	49	—	△1	△1
	シンガポールドル	24	—	0	0
合計	3,169	—	△7	△7	

(注) 時価の算定

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
通貨関連

区分	種類	当連結会計年度 (平成23年3月31日)			
		契約額等(百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
			うち1年超 (百万円)		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	2,689	13	30	30
	スウェーデン・クローナ	121	—	△8	△8
	ユーロ	43	—	△0	△0
	買建				
	米ドル	283	—	5	5
	ユーロ	41	—	1	1
	タイバーツ	5	—	△0	△0
	シンガポールドル	3	—	0	0
合計	3,188	13	27	27	

(注) 時価の算定

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

連結財務諸表提出会社及び一部の国内連結子会社は、確定給付型の制度として、基金型確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

なお、提出会社及び一部の国内連結子会社は年金制度について、2011年1月に従来の確定給付企業年金制度を労使の合意を得た後に改定し、2011年4月よりキャッシュ・バランス・プランを導入しております。これは対象者の年金について、給付水準及び毎年の市場金利等を考慮して計算した金額を、対象者毎に積立を行う制度であります。

国内連結子会社のうち1社は、中小企業退職金共済制度を採用しております。

また、国内連結子会社のうち1社は、総合設立型の厚生年金基金に加入しておりますが、連結子会社の拠出に対する年金資産の額が合理的に計算できないため、退職給付債務の計算には含めておりません。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	(平成21年3月31日現在)	(平成22年3月31日現在)
①年金資産の額	235,665百万円	267,165百万円
②年金財政計算上の給付債務の額	328,394百万円	304,796百万円
③差引額 (①-②)	△92,729百万円	△37,630百万円

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

	(平成21年3月31日現在)	(平成22年3月31日現在)
	0.55%	0.59%

(3) 補足説明

$$\text{差引額 (③)} = (\text{a} + \text{b} - \text{c} - \text{d})$$

	(平成21年3月31日現在)	(平成22年3月31日現在)
a. 不足金	△36,810百万円	－百万円
b. 剰余金	－百万円	16,992百万円
c. 資産評価調整加算額	35,808百万円	37,528百万円
d. 未償却過去勤務債務残高	20,109百万円	17,094百万円
・過去勤務債務の償却方法	期間20年の元利均等償却	期間20年の元利均等償却
・過去勤務債務の残存償却年数	10年	9年

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
(1) 退職給付債務	△65,423百万円	△65,491百万円
(2) 年金資産	29,770百万円	30,440百万円
(3) 未積立退職給付債務 (1) + (2)	△35,653百万円	△35,050百万円
(4) 未認識過去勤務債務	△343百万円	△960百万円
(5) 未認識数理計算上の差異	10,468百万円	8,457百万円
(6) 連結貸借対照表計上額純額 (3) + (4) + (5)	△25,527百万円	△27,553百万円
(7) 前払年金費用	－百万円	－百万円
(8) 退職給付引当金 (6) - (7)	△25,527百万円	△27,553百万円

(注) 一部の国内連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

### 3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(1) 勤務費用	1,822百万円	2,044百万円
(2) 利息費用	1,491百万円	1,283百万円
(3) 期待運用収益	△397百万円	△1,041百万円
(4) 過去勤務債務の費用処理額	△528百万円	△474百万円
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	2,171百万円	2,239百万円
(6) 退職給付費用 ((1) + (2) + (3) + (4) + (5))	4,558百万円	4,051百万円

(注) 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。

### 4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
(1) 割引率	2.0%	2.0%
(2) 期待運用収益率	1.5%	3.5%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(4) 過去勤務債務償却年数	10年	10年
(5) 数理計算上の差異償却年数	10年	10年

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																																																										
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">10,361百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">2,411百万円</td></tr> <tr><td>工事未払金</td><td style="text-align: right;">475百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">335百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">643百万円</td></tr> <tr><td>完成工事補償引当金</td><td style="text-align: right;">408百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">410百万円</td></tr> <tr><td>工事損失引当金</td><td style="text-align: right;">176百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1,298百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">16,522百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△783百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">15,738百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">△654百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△23百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">△677百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 <u>15,061百万円</u></p> <p>繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">4,657百万円</td></tr> <tr><td>固定資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">10,404百万円</td></tr> <tr><td>流動負債－繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">－百万円</td></tr> <tr><td>固定負債－繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">－百万円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>	退職給付引当金	10,361百万円	賞与引当金	2,411百万円	工事未払金	475百万円	貸倒引当金	335百万円	減価償却費	643百万円	完成工事補償引当金	408百万円	未払事業税	410百万円	工事損失引当金	176百万円	その他	1,298百万円	繰延税金資産小計	16,522百万円	評価性引当額	△783百万円	繰延税金資産合計	15,738百万円	固定資産圧縮積立金	△654百万円	その他有価証券評価差額金	△23百万円	繰延税金負債合計	△677百万円	流動資産－繰延税金資産	4,657百万円	固定資産－繰延税金資産	10,404百万円	流動負債－繰延税金負債	－百万円	固定負債－繰延税金負債	－百万円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">11,181百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">2,449百万円</td></tr> <tr><td>工事未払金</td><td style="text-align: right;">833百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">384百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">699百万円</td></tr> <tr><td>完成工事補償引当金</td><td style="text-align: right;">348百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">456百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1,813百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">18,165百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△1,671百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">16,494百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">△654百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△3百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△13百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">△670百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 <u>15,823百万円</u></p> <p>繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">4,541百万円</td></tr> <tr><td>固定資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">11,281百万円</td></tr> <tr><td>流動負債－繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">－百万円</td></tr> <tr><td>固定負債－繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">－百万円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.2</td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">0.7</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">7.8</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△0.7</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;"><u>49.6</u></td></tr> </table>	退職給付引当金	11,181百万円	賞与引当金	2,449百万円	工事未払金	833百万円	貸倒引当金	384百万円	減価償却費	699百万円	完成工事補償引当金	348百万円	未払事業税	456百万円	その他	1,813百万円	繰延税金資産小計	18,165百万円	評価性引当額	△1,671百万円	繰延税金資産合計	16,494百万円	固定資産圧縮積立金	△654百万円	その他有価証券評価差額金	△3百万円	その他	△13百万円	繰延税金負債合計	△670百万円	流動資産－繰延税金資産	4,541百万円	固定資産－繰延税金資産	11,281百万円	流動負債－繰延税金負債	－百万円	固定負債－繰延税金負債	－百万円	法定実効税率	40.6%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2	住民税均等割等	0.7	評価性引当額	7.8	その他	△0.7	税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>49.6</u>
退職給付引当金	10,361百万円																																																																																										
賞与引当金	2,411百万円																																																																																										
工事未払金	475百万円																																																																																										
貸倒引当金	335百万円																																																																																										
減価償却費	643百万円																																																																																										
完成工事補償引当金	408百万円																																																																																										
未払事業税	410百万円																																																																																										
工事損失引当金	176百万円																																																																																										
その他	1,298百万円																																																																																										
繰延税金資産小計	16,522百万円																																																																																										
評価性引当額	△783百万円																																																																																										
繰延税金資産合計	15,738百万円																																																																																										
固定資産圧縮積立金	△654百万円																																																																																										
その他有価証券評価差額金	△23百万円																																																																																										
繰延税金負債合計	△677百万円																																																																																										
流動資産－繰延税金資産	4,657百万円																																																																																										
固定資産－繰延税金資産	10,404百万円																																																																																										
流動負債－繰延税金負債	－百万円																																																																																										
固定負債－繰延税金負債	－百万円																																																																																										
退職給付引当金	11,181百万円																																																																																										
賞与引当金	2,449百万円																																																																																										
工事未払金	833百万円																																																																																										
貸倒引当金	384百万円																																																																																										
減価償却費	699百万円																																																																																										
完成工事補償引当金	348百万円																																																																																										
未払事業税	456百万円																																																																																										
その他	1,813百万円																																																																																										
繰延税金資産小計	18,165百万円																																																																																										
評価性引当額	△1,671百万円																																																																																										
繰延税金資産合計	16,494百万円																																																																																										
固定資産圧縮積立金	△654百万円																																																																																										
その他有価証券評価差額金	△3百万円																																																																																										
その他	△13百万円																																																																																										
繰延税金負債合計	△670百万円																																																																																										
流動資産－繰延税金資産	4,541百万円																																																																																										
固定資産－繰延税金資産	11,281百万円																																																																																										
流動負債－繰延税金負債	－百万円																																																																																										
固定負債－繰延税金負債	－百万円																																																																																										
法定実効税率	40.6%																																																																																										
(調整)																																																																																											
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2																																																																																										
住民税均等割等	0.7																																																																																										
評価性引当額	7.8																																																																																										
その他	△0.7																																																																																										
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>49.6</u>																																																																																										

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「建設事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「本邦」の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	東南アジア	その他アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	6,978	3,087	9,201	19,268
II 連結売上高(百万円)				155,181
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	4.5	2.0	5.9	12.4

(注) 1 国又は地域の区分は地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域は次のとおりであります。

(1) 東南アジア : インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ラオス等

(2) その他アジア : 中国、台湾、韓国、インド、アラブ首長国連邦、クウェート等

(3) その他の地域 : エジプト、南北アメリカ、オセアニア等

3 「海外売上高」は、連結財務諸表提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、かつ経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっております。

当社は、事業を展開する分野別に事業部門を設置し、エンジニアリング・調達・施工・試運転・調整・サービスまでの一貫した事業活動を行なっておりますが、報告セグメントとしては共通技術・共通設備別に集約をし、「発電システム部門」及び「社会・産業システム部門」の2つとしております。

「発電システム部門」は、火力、水力、原子力発電設備の計画、設計、監督施工、試運転、保守等の事業を行っております。「社会・産業システム部門」は、受変電設備、公共設備や一般産業向けの各種設備ビル設備、情報系事業の計画、設計、監督施工、試運転、保守等の事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(単位：百万円)

	発電システム部門	社会・産業システム部門	合計
売上高			
外部顧客への売上高	89,158	66,023	155,181
セグメント間の内部売上高又は振替高	615	244	859
計	89,773	66,268	156,041
セグメント利益	8,996	4,426	13,422
その他の項目			
減価償却費	549	188	737
受取利息	35	60	96
持分法による投資利益	63	—	63

セグメント資産については、事業セグメントに配分された資産がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	発電システム部門	社会・産業システム部門	合計
売上高			
外部顧客への売上高	81,014	70,119	151,134
セグメント間の内部売上高又は振替高	902	109	1,012
計	81,917	70,229	152,146
セグメント利益	7,497	5,910	13,408
その他の項目			
減価償却費	565	178	743
受取利息	105	77	182
持分法による投資利益	62	—	62

セグメント資産については、事業セグメントに配分された資産がないため、記載を省略しております。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	156,041	152,146
セグメント間取引消去	△859	△1,012
連結損益計算書の完成工事高	155,181	151,134

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	13,422	13,408
連結損益計算書の経常利益	13,422	13,408

（単位：百万円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	737	743	—	—	737	743
受取利息	96	182	—	—	96	182
持分法による投資利益	63	62	—	—	63	62

【関連情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	東南アジア	その他アジア	その他の地域	合計
129,774	12,708	3,937	4,714	151,134

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 各区分に属する主な国又は地域は次のとおりであります。

- (1) 東南アジア : インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ラオス等
- (2) その他アジア : 中国、台湾、韓国、インド、アラブ首長国連邦、クウェート等
- (3) その他の地域 : エジプト、南北アメリカ、オセアニア等

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株) 東芝	98,117	発電システム部門 社会・産業システム部門

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)		
主要株主	㈱東芝	東京都港区	439,901	1 電気機械器具製造業	直接 59.97 間接 1.65	当社は親会社より電気工事、管工事、機械器具設置工事、電気通信工事、建築工事、消防施設工事及び鋼構造物工事の請負施工をしております。また前記工事に関連する一部の資材を購入しております。	営業取引	工事請負	99,160	完成工事未収入金	51,160		
				2 計量器、医療機械器具その他機械器具製造業						その他流動資産	96		
				3 ソフトウェア業、電気通信業、放送業、情報処理サービス業、情報提供サービス業						未成工事受入金	1,059		
				4 化学工業、金属工業、建設業、窯業、鋳業、土石採取業						資材購入	6,065	工事未払金	3,675
				5 前各号の附帯又は関連事業						その他流動負債	21		
				6 前各号の営業を行う者に対する投資									

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 議決権等の被所有割合の間接所有は東芝保険サービス㈱(1.65%)、芝浦メカトロニクス㈱(0.00%)及び東芝ファイナンス㈱(0.00%)であります。

取引条件及び取引条件の決定方針等

工事請負並びに資材購入については、一般的取引条件と同様に決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社を持つ会社	東芝キャピタル㈱	東京都港区	100	1 金銭の貸付 2 売掛債権及び手形の買取 3 有価証券の売買 4 前各号に附帯又は関連する一切の事業	なし	資金の預入	営業外取引	資金の預入	172,000	グループ預け金	26,500

(注) 上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税等が含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

当社と東芝キャピタル㈱との間で資金取引に関する基本契約を締結し、資金の預入を行っているものです。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社を持つ会社	東芝キャピタル㈱	東京都港区	100	1 金銭の貸付 2 売掛債権及び手形の買取 3 有価証券の売買 4 前各号に附帯又は関連する一切の事業	なし	資金の預入	営業外取引	資金の預入	22,644	グループ預け金	2,560

(注) 上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税等が含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

連結財務諸表提出会社の連結子会社と東芝キャピタル㈱との間で資金取引に関する基本契約を締結し、資金の預入を行っているものです。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社 東芝（東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所、ロンドン証券取引所に上場）

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要株主	㈱東芝	東京都港区	439,901	1 電気機械器具製造業 2 計量器、医療機械器具その他機械器具製造業 3 ソフトウェア業、電気通信業、放送業、情報処理サービス業、情報提供サービス業 4 化学工業、金属工業、建設業、窯業、鋳業、土石採取業 5 前各号の附帯又は関連事業 6 前各号の営業を行う者に対する投資	直接 59.96 間接 1.65	当社は親会社より電気工事、管工事、機械器具設置工事、電気通信工事、建築工事、消防施設工事及び鋼構造物工事の請負施工をしており、前記工事に関連する一部の資材を購入しております。また、資金の預入をしております。	営業取引	工事請負	97,646	完成工事未収入金	56,216
										その他流動資産	77
							営業取引		未成工事受入金	765	
							資材購入	7,482	工事未払金	4,615	
							営業外取引	資金の預入	101,900	その他流動負債	35
										グループ預け金	35,100

- (注) 1 営業取引の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。
- 2 営業外取引の金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税等が含まれておりません。
- 3 議決権等の被所有割合の間接所有は東芝保険サービス㈱(1.65%)、芝浦メカトロニクス㈱(0.00%)及び東芝ファイナンス㈱(0.00%)であります。

取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 工事請負並びに資材購入については、一般的取引条件と同様に決定しております。
2. 資金の預入については、当社と㈱東芝との間で資金取引に関する基本契約を締結して行っております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の  
子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要株主	(株)東芝	東京都港区	439,901	1 電気機械器具製造業 2 計量器、医療機械器具その他機械器具製造業 3 ソフトウェア業、電気通信業、放送業、情報処理サービス業、情報提供サービス業 4 化学工業、金属工業、建設業、窯業、鋳業、土石採取業 5 前各号の附帯又は関連事業 6 前各号の営業を行う者に対する投資	直接 59.96 間接 1.65	資金の預入	営業外取引	資金の預入	9,200	グループ預け金	2,080

(注) 上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税等が含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

連結財務諸表提出会社の連結子会社と(株)東芝との間で資金取引に関する基本契約を締結し、資金の預入を行なっているものです。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社 東芝 (東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所、ロンドン証券取引所に上場)

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額	829円00銭	872円18銭
1株当たり当期純利益金額	80円45銭	58円92銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額については、潜在株 式がないため記載しておりません。	同左

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純利益(百万円)	7,840	5,741
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	7,840	5,741
期中平均株式数(千株)	97,453	97,436

## (重要な後発事象)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)及び当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	8	11	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	11	25	—	平成24年～28年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	19	36	—	—

(注) 1. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2. リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	9	6	5	3

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当該連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規程により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	18,580	40,273	26,792	65,487
税金等調整前四半期純利益 金額（百万円）	452	3,046	1,758	6,168
四半期純利益金額 （百万円）	227	1,712	936	2,865
1株当たり四半期純利益金 額（円）	2.33	17.57	9.60	29.41

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,080	1,851
グループ預け金	26,500	35,100
受取手形	406	450
完成工事未収入金	※3 74,862	※3 77,451
未成工事支出金	※1 16,129	17,863
繰延税金資産	4,308	4,160
未収入金	—	2,246
作業所仮払金	—	2,271
その他	1,752	252
貸倒引当金	△524	△870
流動資産合計	124,515	140,776
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,061	6,296
減価償却累計額	△4,643	△4,794
建物（純額）	1,418	1,502
構築物	865	930
減価償却累計額	△771	△801
構築物（純額）	93	128
機械及び装置	2,103	2,152
減価償却累計額	△1,908	△1,938
機械及び装置（純額）	194	214
車両運搬具	233	225
減価償却累計額	△220	△217
車両運搬具（純額）	13	8
工具器具・備品	3,440	3,417
減価償却累計額	△2,902	△2,959
工具器具・備品（純額）	537	458
土地	3,353	3,353
リース資産	71	91
減価償却累計額	△34	△49
リース資産（純額）	36	41
有形固定資産合計	5,646	5,706
無形固定資産		
ソフトウェア	62	49
電話加入権	49	49

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
その他	33	30
無形固定資産合計	145	129
投資その他の資産		
投資有価証券	2,608	558
関係会社株式	458	947
長期貸付金	158	—
破産更生債権等	120	5
長期前払費用	10	12
繰延税金資産	9,723	10,558
長期保証金	722	596
その他	172	171
貸倒引当金	△387	△115
投資その他の資産合計	13,586	12,735
固定資産合計	19,378	18,572
資産合計	143,894	159,349
負債の部		
流動負債		
支払手形	2,204	2,392
工事未払金	※3 22,438	※3 32,846
未払金	2,056	1,371
未払費用	6,481	6,580
未払法人税等	4,972	5,428
未成工事受入金	※3 3,030	※3 2,846
預り金	226	211
役員賞与引当金	51	57
完成工事補償引当金	1,005	857
工事損失引当金	※1 434	—
その他	47	15
流動負債合計	42,948	52,607
固定負債		
退職給付引当金	23,993	25,903
その他	85	124
固定負債合計	24,079	26,028
負債合計	67,027	78,636

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,876	11,876
資本剰余金		
資本準備金	20,910	20,910
資本剰余金合計	20,910	20,910
利益剰余金		
利益準備金	1,864	1,864
その他利益剰余金		
圧縮積立金	958	958
別途積立金	19,091	19,091
繰越利益剰余金	22,261	26,142
利益剰余金合計	44,175	48,057
自己株式	△132	△138
株主資本合計	76,829	80,705
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	37	8
評価・換算差額等合計	37	8
純資産合計	76,867	80,713
負債純資産合計	143,894	159,349

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高		
完成工事高	※1 150,693	※1 145,906
売上原価		
完成工事原価	※4 129,709	※4 124,733
売上総利益		
完成工事総利益	20,983	21,173
販売費及び一般管理費		
役員報酬	107	129
従業員給料手当	4,138	4,208
退職金	1	1
退職給付引当金繰入額	637	558
役員退職慰労引当金繰入額	13	—
役員賞与引当金繰入額	51	57
法定福利費	534	540
福利厚生費	26	21
教育研修費	93	154
修繕費	15	12
事務用品費	57	47
旅費及び交通費	317	340
通信費	99	85
動力用水光熱費	148	122
調査研究費	426	464
広告宣伝費	37	21
貸倒引当金繰入額	4	187
交際費	146	139
寄付金	7	12
賃借料	345	295
減価償却費	176	124
租税公課	362	362
保険料	182	201
その他	1,045	907
販売費及び一般管理費合計	※2 8,976	※2 9,000
営業利益	12,007	12,172
営業外収益		
受取利息	76	159
受取配当金	371	339
為替差益	172	—
保険配当金	120	142
その他	105	100
営業外収益合計	845	742

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
営業外費用		
為替差損	—	239
固定資産処分損	15	—
貸倒引当金繰入額	3	—
コミットメントフィー	4	—
その他	10	61
営業外費用合計	33	301
経常利益	12,820	12,613
特別利益		
固定資産売却益	*3 106	—
特別利益合計	106	—
特別損失		
本社移転費用	192	—
投資有価証券評価損	—	1,982
特別損失合計	192	1,982
税引前当期純利益	12,734	10,630
法人税、住民税及び事業税	5,860	5,954
法人税等調整額	△717	△667
法人税等合計	5,143	5,287
当期純利益	7,590	5,343

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		23,991	18.5	26,848	21.5
労務費		68	0.1	42	0.0
外注費		56,857	43.8	51,960	41.7
経費		48,792	37.6	45,882	36.8
(うち人件費)		(30,188)	(23.3)	(29,730)	(23.8)
合計		129,709	100	124,733	100

(注) 原価計算の方法は個別原価計算により工事毎に原価を材料費、労務費、外注費、経費の要素別に分類集計しております。

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
前期末残高	11,876	11,876
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	11,876	11,876
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	20,910	20,910
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	20,910	20,910
資本剰余金合計		
前期末残高	20,910	20,910
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	20,910	20,910
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	1,864	1,864
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,864	1,864
その他利益剰余金		
圧縮積立金		
前期末残高	958	958
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	958	958
別途積立金		
前期末残高	19,091	19,091
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	19,091	19,091
繰越利益剰余金		
前期末残高	16,132	22,261
当期変動額		
剰余金の配当	△1,461	△1,461
当期純利益	7,590	5,343
当期変動額合計	6,128	3,881
当期末残高	22,261	26,142

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	38,046	44,175
当期変動額		
剰余金の配当	△1,461	△1,461
当期純利益	7,590	5,343
当期変動額合計	6,128	3,881
当期末残高	44,175	48,057
<b>自己株式</b>		
前期末残高	△104	△132
当期変動額		
自己株式の取得	△28	△5
当期変動額合計	△28	△5
当期末残高	△132	△138
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	70,728	76,829
当期変動額		
剰余金の配当	△1,461	△1,461
当期純利益	7,590	5,343
自己株式の取得	△28	△5
当期変動額合計	6,100	3,875
当期末残高	76,829	80,705
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	9	37
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	△29
当期変動額合計	27	△29
当期末残高	37	8
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	9	37
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	△29
当期変動額合計	27	△29
当期末残高	37	8

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
純資産合計		
前期末残高	70,738	76,867
当期変動額		
剰余金の配当	△1,461	△1,461
当期純利益	7,590	5,343
自己株式の取得	△28	△5
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	△29
当期変動額合計	6,128	3,846
当期末残高	76,867	80,713

【重要な会計方針】

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>1 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法によっております。</p> <p>(2) その他有価証券(時価のあるもの) 期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。 その他有価証券(時価のないもの) 移動平均法による原価法によっております。</p> <p>2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法 時価法によっております。</p> <p>3 たな卸資産の評価基準及び評価方法 未成工事支出金……個別法に基づく原価法</p> <p>4 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産 (リース資産を除く)……定率法によっておりますが、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 3～50年 構築物 3～60年 機械装置 3～17年</p> <p>無形固定資産 (リース資産を除く)……定額法によっております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>リース資産……リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>	<p>1 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券(時価のあるもの) 同左</p> <p>その他有価証券(時価のないもの) 同左</p> <p>2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法 同左</p> <p>3 たな卸資産の評価基準及び評価方法 同左</p> <p>4 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産 (リース資産を除く)……同左</p> <p>無形固定資産 (リース資産を除く)……同左</p> <p>リース資産……同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>6 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金……債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与 引当金……役員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しております。</p> <p>(3) 完成工事 補償引当金……完成工事の瑕疵担保の費用に充てるため、過去の完成工事に係る補償費の実績を基に将来の発生見込額を加味して計上しております。</p> <p>(4) 工事損失 引当金……受注工事の損失に備えるため、期末の未引渡工事のうち、大幅な損失が発生すると見込まれ、かつ、期末時点で当該損失額を合理的に見積ることが可能な工事について、翌期以降の損失見積額を引当計上しております。</p>	<p>5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 同左</p> <p>6 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金……同左</p> <p>(2) 役員賞与 引当金……同左</p> <p>(3) 完成工事 補償引当金……同左</p> <p>(4) 工事損失 引当金……同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>(5) 退職給付 引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)により定額償却しております。 数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法によりそれぞれ発生翌期より費用処理しております。 (会計方針の変更) 当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 数理計算上の差異を翌事業年度から償却するため、これによる損益に与える影響はありません。 また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は3,462百万円であります。</p>	<p>(5) 退職給付 引当金……………同左</p>
<p>(6) 役員退職慰労引当金 _____ (追加情報) 当社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく要支給額を計上しておりましたが、平成21年6月25日開催の定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止し、同定時株主総会において役員退職慰労金の打ち切り支給が承認されました。これに伴い、当該役員退職慰労引当金残高48百万円を取崩し、固定負債の「その他」に含めて表示しております。 これによる損益に与える影響はありません。</p>	<p>(6) 役員退職慰労引当金 _____</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>7 完成工事高の収益計上基準</p> <p>(イ) 当事業年度末までの進捗部分について成果の 確実性が認められる工事 工事進行基準 (工事の進捗率の見積りは原価比 例法)</p> <p>(ロ) その他の工事 工事完成基準</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従 来、長期大型 (工期12ヶ月以上、請負金額10億円以 上) の工事については工事進行基準を、その他の工 事については工事完成基準を適用しておりました が、当事業年度より「工事契約に関する会計基準」 (企業会計基準第15号 平成19年12月27日) 及び 「工事契約に関する会計基準の適用指針」 (企業会 計基準適用指針第18号 平成19年12月27日) を適用 し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年 度末までの進捗部分について成果の確実性が認めら れる工事については工事進行基準 (工事の進捗率の 見積りは原価比例法) を、その他の工事については 工事完成基準を適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式 によっております。</p>	<p>7 完成工事高の収益計上基準</p> <p>(イ) 同左</p> <p>(ロ) 同左</p> <p>—————</p> <p>8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>(1) 消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。</p>

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>(損益計算書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「固定資産処分損」については、前事業年度は、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりましたが、当事業年度において営業外費用の10/100を超えたため区分掲記することに変更いたしました。なお、前事業年度の「その他」に含まれている「固定資産処分損」の金額は12百万円であります。</li> <li>「貸倒引当金繰入額」については、前事業年度は、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりましたが、当事業年度において営業外費用の10/100を超えたため区分掲記することに変更いたしました。なお、前事業年度の「その他」に含まれている「貸倒引当金繰入額」の金額は1百万円であります。</li> <li>「コミットメントフィー」については、前事業年度は、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりましたが、当事業年度において営業外費用の10/100を超えたため区分掲記することに変更いたしました。なお、前事業年度の「その他」に含まれている「コミットメントフィー」の金額は4百万円であります。</li> </ol>	<p>(貸借対照表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前事業年度までは流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「未収入金」は、当事業年度において、資産の総額の100分の1を超えたため区分掲記しました。なお、前事業年度末の「未収入金」は448百万円であります。</li> <li>前事業年度までは流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「作業所仮払金」は、当事業年度において、資産の総額の100分の1を超えたため区分掲記しました。なお、前事業年度末の「作業所仮払金」は1,181百万円であります。</li> </ol> <p>(損益計算書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「固定資産処分損」については、当事業年度において営業外費用の100分の10以下でありますので、営業外費用の「その他」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当事業年度の営業外費用の「その他」に含まれている「固定資産処分損」の金額は14百万円であります。</li> <li>「貸倒引当金繰入額」については、当事業年度において営業外費用の100分の10以下でありますので、営業外費用の「その他」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当事業年度の営業外費用の「その他」に含まれている「貸倒引当金繰入額」の金額は0百万円であります。</li> <li>「コミットメントフィー」については、当事業年度において営業外費用の100分の10以下でありますので、営業外費用の「その他」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当事業年度の営業外費用の「その他」に含まれている「コミットメントフィー」の金額は3百万円であります。</li> </ol>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																										
<p>※1 損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。 損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は430百万円であります。</p> <p>2 偶発債務 下記のものの債務等に対して債務保証をしております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">被保証先</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従業員(住宅融資金)</td> <td style="text-align: right;">1,077百万円</td> </tr> <tr> <td>TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED (履行保証)</td> <td style="text-align: right;">203百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※3 関係会社に関する項目 このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>完成工事未収入金</td> <td style="text-align: right;">51,219百万円</td> </tr> <tr> <td>工事未払金</td> <td style="text-align: right;">4,531百万円</td> </tr> <tr> <td>未成工事受入金</td> <td style="text-align: right;">1,059百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 コミットメントライン契約 短期資金調達のため、取引金融機関4行とコミットメントライン契約を2,800百万円締結しております。期末現在使用残高はありません。</p>	被保証先	金額	従業員(住宅融資金)	1,077百万円	TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED (履行保証)	203百万円	完成工事未収入金	51,219百万円	工事未払金	4,531百万円	未成工事受入金	1,059百万円	<p style="text-align: center;">—————</p> <p>2 偶発債務 下記のものの債務等に対して債務保証をしております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">被保証先</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従業員(住宅融資金)</td> <td style="text-align: right;">920百万円</td> </tr> <tr> <td>TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED (履行保証)</td> <td style="text-align: right;">221百万円</td> </tr> <tr> <td>TPSC(THAILAND)CO.,LTD. (履行保証)</td> <td style="text-align: right;">358百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※3 関係会社に関する項目 このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>完成工事未収入金</td> <td style="text-align: right;">56,316百万円</td> </tr> <tr> <td>工事未払金</td> <td style="text-align: right;">5,838百万円</td> </tr> <tr> <td>未成工事受入金</td> <td style="text-align: right;">765百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 コミットメントライン契約 短期資金調達のため、取引金融機関3行とコミットメントライン契約を2,500百万円締結しております。期末現在使用残高はありません。</p>	被保証先	金額	従業員(住宅融資金)	920百万円	TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED (履行保証)	221百万円	TPSC(THAILAND)CO.,LTD. (履行保証)	358百万円	完成工事未収入金	56,316百万円	工事未払金	5,838百万円	未成工事受入金	765百万円
被保証先	金額																										
従業員(住宅融資金)	1,077百万円																										
TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED (履行保証)	203百万円																										
完成工事未収入金	51,219百万円																										
工事未払金	4,531百万円																										
未成工事受入金	1,059百万円																										
被保証先	金額																										
従業員(住宅融資金)	920百万円																										
TPSC(INDIA)PRIVATE LIMITED (履行保証)	221百万円																										
TPSC(THAILAND)CO.,LTD. (履行保証)	358百万円																										
完成工事未収入金	56,316百万円																										
工事未払金	5,838百万円																										
未成工事受入金	765百万円																										

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)				
<p>※1 関係会社に関する項目 関係会社との取引にかかるものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>完成工事高</td> <td style="text-align: right;">99,328百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 426百万円 当期の完成工事原価に含まれている研究開発費はありません。</p> <p>※3 固定資産売却益の主なものは、土地の売却によるものです。</p> <p>※4 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額 65百万円</p>	完成工事高	99,328百万円	<p>※1 関係会社に関する項目 関係会社との取引にかかるものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>完成工事高</td> <td style="text-align: right;">97,838百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 464百万円 当期の完成工事原価に含まれている研究開発費はありません。</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p>※4 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額 2百万円</p>	完成工事高	97,838百万円
完成工事高	99,328百万円				
完成工事高	97,838百万円				

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

## 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式 (注)	192	25	—	218
合計	192	25	—	218

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加25千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

## 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式 (注)	218	5	—	223
合計	218	5	—	223

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加5千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 ① リース資産の内容 有形固定資産 主として、建設事業における自動車、備品(「車両運搬具」、「工具器具・備品」)であります。 ② リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。	ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 ① リース資産の内容 有形固定資産 同左 ② リース資産の減価償却の方法 同左
オペレーティング・リース取引 (借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 1年内 34百万円 1年超 150百万円 合計 185百万円	オペレーティング・リース取引 (借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 1年内 34百万円 1年超 116百万円 合計 150百万円

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)における子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式453百万円、関連会社株式4百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)における子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式943百万円、関連会社株式4百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <p>退職給付引当金 9,744百万円</p> <p>賞与引当金 2,201百万円</p> <p>工事未払金 455百万円</p> <p>貸倒引当金 333百万円</p> <p>減価償却費 607百万円</p> <p>完成工事補償引当金 408百万円</p> <p>未払事業税 396百万円</p> <p>その他 1,286百万円</p> <hr/> <p>繰延税金資産小計 15,434百万円</p> <p>評価性引当額 △726百万円</p> <hr/> <p>繰延税金資産合計 14,707百万円</p> <p>繰延税金負債</p> <p>固定資産圧縮積立金 △654百万円</p> <p>その他有価証券評価差額金 △23百万円</p> <hr/> <p>繰延税金負債合計 △677百万円</p> <p>繰延税金資産の純額 14,031百万円</p>	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <p>退職給付引当金 10,520百万円</p> <p>賞与引当金 2,223百万円</p> <p>工事未払金 807百万円</p> <p>貸倒引当金 382百万円</p> <p>減価償却費 667百万円</p> <p>完成工事補償引当金 348百万円</p> <p>未払事業税 430百万円</p> <p>その他 1,617百万円</p> <hr/> <p>繰延税金資産小計 16,998百万円</p> <p>評価性引当額 △1,609百万円</p> <hr/> <p>繰延税金資産合計 15,389百万円</p> <p>繰延税金負債</p> <p>固定資産圧縮積立金 △654百万円</p> <p>その他有価証券評価差額金 △3百万円</p> <p>その他 △13百万円</p> <hr/> <p>繰延税金負債合計 △670百万円</p> <p>繰延税金資産の純額 14,718百万円</p>
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率 40.6%</p> <p>(調整)</p> <p>交際費等永久に損金に算入されない項目 0.4</p> <p>住民税均等割等 0.7</p> <p>評価性引当額 8.3</p> <p>その他 △0.3</p> <hr/> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 49.7</p> <hr/>

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額	788円87銭	828円39銭
1株当たり当期純利益金額	77円89銭	54円83銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額については、潜在株 式がないため記載しておりません。	同左

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純利益(百万円)	7,590	5,343
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	7,590	5,343
期中平均株式数(千株)	97,453	97,436

## (重要な後発事象)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)及び当事業年度(自 平成22年4月1日  
至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

④【附属明細表】  
 【有価証券明細表】  
 【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
東京電力(株)	1,000,000	466
関西国際空港(株)	400	20
昭和電線ホールディングス(株)	164,500	17
中部国際空港(株)	304	15
オルガノ(株)	15,000	9
新日本製鐵(株)	32,300	8
東芝テクニカルサービスインターナショナル(株)	28	5
イーキュービック(株)	300	5
東芝電力放射線テクノサービス(株)	110	5
東芝ライテック(株)	100,000	3
その他4銘柄	1,101	2
合計	1,314,043	558

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	6,061	332	98	6,296	4,794	209	1,502
構築物	865	65	—	930	801	30	128
機械装置	2,103	105	55	2,152	1,938	83	214
車両運搬具	233	—	7	225	217	4	8
工具器具・備品	3,440	235	258	3,417	2,959	302	458
土地	3,353	—	—	3,353	—	—	3,353
リース資産	71	23	3	91	49	17	41
有形固定資産計	16,127	762	422	16,466	10,760	647	5,706
無形固定資産							
ソフトウェア	—	—	—	568	519	12	49
電話加入権	—	—	—	49	—	—	49
その他	—	—	—	52	22	3	30
無形固定資産計	—	—	—	671	541	16	129
長期前払費用	25	7	0	32	20	6	12

(注) 無形固定資産の金額は資産の総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略致しました。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注) 1	911	188	112	1	986
役員賞与引当金	51	57	51	—	57
完成工事補償引当金(注) 2	1,005	28	151	24	857
工事損失引当金	434	2	436	—	—

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄は、回収等に伴う取崩しによるものであります。

2 完成工事補償引当金の「当期減少額(その他)」欄は、保証期間満了に伴う取崩しによるものであります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## ① 現金預金

区分		金額(百万円)
現金		12
預金	普通預金	1,044
	当座預金	—
	外貨普通預金	794
	別段預金	0
小計		1,839
合計		1,851

## ② グループ預け金

相手先	金額(百万円)
(株)東芝	35,100
合計	35,100

## ③ 受取手形

相手先	金額(百万円)
(株)NIPPON	78
芝浦メカトロニクス(株)	76
ナイテック・プレシジョン・アンド・テクノロジーズ(株)	33
イワキ・モリタニ電工(株)	25
(株)千代田組	24
その他	211
合計	450

## 決済期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成23年4月	81
5月	139
6月	83
7月	64
8月	81
合計	450

## ④ 完成工事未収入金

相手先	金額(百万円)
(株)東芝	56,216
東芝三菱電機産業システム(株)	4,041
豊田通商(株)	2,945
住友商事(株)	2,159
東芝電機サービス(株)	1,217
その他	10,871
合計	77,451

## 完成工事未収入金滞留状況

計上期	金額(百万円)
平成23年3月期計上額	76,260
平成22年3月期以前計上額	1,190
合計	77,451

## ⑤ 未成工事支出金

期首残高(百万円)	当期支出額(百万円)	完成工事原価への振替額 (百万円)	期末残高(百万円)
16,129	126,467	124,733	17,863

(注) 期末残高の内訳は次のとおりであります。

材料費	2,857百万円
労務費	27百万円
外注費	6,829百万円
経費	8,149百万円
合計	17,863百万円

## ⑥ 繰延税金資産

繰延税金資産は、流動資産と固定資産の合計で14,718百万円であり、その内容については「2 財務諸表等 (1)財務諸表 注記事項 (税効果会計関係)」に記載しております。

⑦ 支払手形

相手先	金額(百万円)
(株)フジクラ	242
三洋工業(株)	133
東芝プラントシステム事業協同組合	131
北札幌電設(株)	111
牧井ステンレス(株)	109
その他	1,662
合計	2,392

決済期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成23年4月	714
5月	518
6月	557
7月	601
合計	2,392

⑧ 工事未払金

相手先	金額(百万円)
(株)東芝	4,615
SIEMENS INDUSTRIAL TURBO MACHINERY AB	2,059
江戸商事(株)	1,407
芝浦プラント(株)	803
芝工業(株)	546
その他	23,413
合計	32,846

⑨ 未成工事受入金

期首残高(百万円)	当期受入額(百万円)	完成工事への振替額 (百万円)	期末残高(百万円)
3,030	8,396	8,580	2,846

⑩ 退職給付引当金

区分	金額(百万円)
退職給付債務	61,937
年金資産	△28,733
未認識過去勤務債務	794
未認識数理計算上の差異	△8,094
合計	25,903

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取った単元未満株式の数で按分した金額とする。 (算式) 1株当たりの買取単価に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき、当該金額の1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき、当該金額の0.900% 500万円を超え1,000万円以下の金額につき、当該金額の0.700% 1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき、当該金額の0.575% 3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき、当該金額の0.375% (円未満の端数を生じた場合は切り捨てる。) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には、2,500円とする。
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 電子公告URL <a href="http://www.toshiba-tpsc.co.jp/">http://www.toshiba-tpsc.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、以下に掲げる権利以外の権利を有しておりません。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
3. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- |   |                       |                  |                               |                         |
|---|-----------------------|------------------|-------------------------------|-------------------------|
| (1)   | 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書 | 事業年度<br>(第104期)  | 自 平成21年4月1日<br>至 平成22年3月31日   | 平成22年6月24日<br>関東財務局長に提出 |
| (2)   | 内部統制報告書及びその添付書類       |                  |                               | 平成22年6月24日<br>関東財務局長に提出 |
| (3)   | 臨時報告書                 |                  |                               | 平成22年6月28日<br>関東財務局長に提出 |
| 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。 |                       |                  |                               |                         |
| (4)   | 四半期報告書及び確認書           | 第1四半期<br>(第105期) | 自 平成22年4月1日<br>至 平成22年6月30日   | 平成22年8月6日<br>関東財務局長に提出  |
| (5)   | 四半期報告書及び確認書           | 第2四半期<br>(第105期) | 自 平成22年7月1日<br>至 平成22年9月30日   | 平成22年11月5日<br>関東財務局長に提出 |
| (6)   | 四半期報告書及び確認書           | 第3四半期<br>(第105期) | 自 平成22年10月1日<br>至 平成22年12月31日 | 平成23年2月4日<br>関東財務局長に提出  |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月23日
【会社名】	東芝プラントシステム株式会社
【英訳名】	TOSHIBA PLANT SYSTEMS & SERVICES CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 佐藤健次
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	横浜市鶴見区鶴見中央四丁目36番5号 (注) 本店は、平成22年7月1日付で東京都大田区蒲田五丁目37番1号から 上記場所に移転しました。
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 東芝プラントシステム株式会社 中部支社 (名古屋市西区名西二丁目33番10号) 東芝プラントシステム株式会社 関西支社 (大阪市北区角田町8番1号) (注) 関西支社は、平成22年12月20日付で大阪市中央区本町四丁目2番12号 から上記場所に移転しました。

## 1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

取締役社長佐藤健次は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成23年3月31日を基準日として行なわれており、評価にあたっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行なった上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行ないました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社3社を対象として行なった全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社8社及び持分法適用関連会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行なっている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

## 4【付記事項】

付記すべき事項はありません。

## 5【特記事項】

特記すべき事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月24日

東芝プラントシステム株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 一浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野水 善之 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東芝プラントシステム株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東芝プラントシステム株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東芝プラントシステム株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、東芝プラントシステム株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月23日

東芝プラントシステム株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 一浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野水 善之 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東芝プラントシステム株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東芝プラントシステム株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東芝プラントシステム株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、東芝プラントシステム株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月24日

東芝プラントシステム株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 一浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野水 善之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東芝プラントシステム株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第104期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東芝プラントシステム株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成23年6月23日

東芝プラントシステム株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 一浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野水 善之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東芝プラントシステム株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第105期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東芝プラントシステム株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。